



ネットワークビデオレコーダー

ユーザーマニュアル

免責事項

この文書について

- 本ドキュメントには、製品の使用および管理に関する説明が含まれています。以下に掲載されている写真、図表、画像、その他すべての情報は、説明および解説のみを目的としています。
- 本ドキュメントに記載されている情報は、ファームウェアの更新やその他の理由により、予告なく変更される場合があります。最新バージョンのドキュメントは、Hikvision ウェブサイト (<https://www.hikvision.com>) でご覧ください。
Hikvision ウェブサイト (<https://www.hikvision.com>) でご確認ください。別段の合意がない限り、杭州海康威視数字技術有限公司およびその関連会社（以下「Hikvision」）は、明示または黙示を問わず、いかなる保証もいたしません。明示または黙示を問わず、いかなる保証も行いません。
- 本製品をサポートする訓練を受けた専門家の指導と支援のもとで、本ドキュメントをご利用ください。

本製品について

- 本製品は、購入された国または地域でのみアフターサービスサポートを受けることができます。
- お選びいただいた製品が映像製品の場合、下記のQRコードをスキャンして「映像製品ご利用に関する取り組み」入手し、必ずお読みください。



知的財産権に関する承認

- Hikvision は、本製品に組み込まれた技術に関連する著作権および/または特許を所有しています。
本製品に記載されている技術に関する著作権および/または特許を所有しており、これには第三者から取得したライセンスが含まれる場合があります。
- 本ドキュメントのテキスト、画像、グラフィック等を含む一切の部分は、Hikvisionに帰属します。書面による許可なく、本ドキュメントの全部または一部をいかなる手段によっても抜粋、複製、翻訳、または改変することはできません。
- **HIKVISION** およびその他のHikvisionの商標およびロゴは、各管轄区域においてHikvisionの財産です。
- 記載されているその他の商標およびロゴは、それぞれの所有者に帰属します。

- **HDMI™** HDMI および HDMI High-Definition Multimedia Interface、ならびに HDMI ロゴは、米国およびその他の国における HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。

およびその他の国における商標または登録商標です。

免責事項

- 適用される法律で許容される最大限の範囲において、本文書および記載された製品（ハードウェア、ソフトウェア、ファームウェアを含む）は「現状有姿のまま」かつ「あらゆる欠陥およびエラーを含む状態で」提供されます。HIKVISIONは、明示的または商品性、満足のいく品質、特定目的への適合性を含むがこれらに限定されない、明示的または黙示的な保証を一切行いません。特定目的への適合性を含みますがこれらに限定されません。本製品のご利用はお客様ご自身の責任において行われるものとします。いかなる場合においても、HIKVISIONはお客様に対し、特別損害、結果的損害、付随的損害、間接損害（事業利益の損失、事業中断、データ損失、システムの破損、文書の損失を含むがこれらに限定されない）について、契約違反、不法行為（過失を含む）に基づくか否かを問わず、一切の責任を負いません。契約違反、不法行為（過失を含む）、製造物責任、その他を理由とするものであっても、本製品の使用に関連して生じた、事業利益の損失、事業中断、データの損失、システムの破損、文書の損失などの損害について、HIKVISIONは一切の責任を負いません。製品に関して、HIKVISIONがそのような損害または損失の可能性について事前に通知されていた場合であっても、一切の責任を負いません。
 - お客様は、インターネットの性質上、固有のセキュリティリスクが存在することを認識し、サイバー攻撃、ハッカー攻撃、ウイルス感染、その他のインターネットセキュリティリスクに起因する異常動作、プライバシー漏洩、その他の損害について、HIKVISIONは一切の責任を負わないものとします。ウイルス感染、その他のインターネットセキュリティリスクに起因する異常動作、プライバシー漏洩、その他の損害について一切の責任を負いません。ただし、必要に応じてタイムリーな技術サポートを提供します。
 - お客様は、適用されるすべての法律を遵守して本製品を使用することに同意し、お客様の使用が適用される法律に準拠していることを確認する責任はお客様のみにあるものとします。特に、お客様は、第三者の権利（以下を含むがこれに限定されない）を侵害しない方法で本製品を使用する責任を負います。広報、知的財産権、またはデータ保護およびその他のプライバシー権。権利。お客様は、大量破壊兵器の開発または製造、化学兵器または生物兵器の開発または製造、核爆発または安全でない核燃料サイクルに関連するあらゆる活動、あるいは人権侵害を支援する活動を含む、禁止されている最終用途のために本製品を使用してはなりません。核爆発または安全でない核燃料サイクルに関連する活動、あるいは人権侵害を支援する活動。
 - 本文書と適用される法律との間に矛盾が生じた場合は、適用される法律が優先するものとします。
- © Hangzhou Hikvision Digital Technology Co., Ltd. All rights reserved.

規制情報

FCC 情報

コンプライアンスの責任者が明示的に承認していない変更または改造は、ユーザーによる機器の操作権限を無効にする可能性があることにご留意ください。

FCC準拠: 本機器は、FCC規則第15部に準拠し、クラスBデジタル機器の制限値に適合することが試験により確認されています。これらの制限値は、住宅環境における有害な干渉から合理的な保護を提供するために設計されています。本機器は無線周波エネルギーを発生・使用し、放射する可能性があります。取扱説明書に従って設置・使用しない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす恐れがあります。

ただし、特定の設置環境において干渉が発生しないことを保証するものではありません。本機器がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こしている場合（機器の電源をオフにしてからオンにすることで確認可能）、ユーザーは以下の対策のいずれかまたは複数を試み、干渉の解消を図ることを推奨します：

- 受信アンテナの方向や設置場所を変更する。
- 本機器と受信機の間隔を広げる。
- 受信機が接続されている回路とは異なる回路のコンセントに本機器を接続する。
- 販売店または経験豊富なラジオ/テレビ技術者に相談してください。

この機器は、放射器と身体の間で最低20cmの距離を保って設置・操作してください。

FCC条件

本装置はFCC規則第15部に準拠しています。以下の2つの条件に従って動作します：

- 本装置は有害な干渉を引き起こしてはなりません。
- 本装置は、受信したあらゆる干渉（意図しない動作を引き起こす可能性のある干渉を含む）を受け入れる必要があります。

EU適合宣言



本製品および付属品（該当する場合）には「CE」マークが付けられており、電気機器指令2014/53/EU、電磁両立性指令2014/30/EU、低電圧指令2014/35/EU、RoHS指令2011/65/EUに規定される欧州統一規格に適合しています。

2012/19/EU（WEEE指令）: この記号が付された製品は、欧州連合域内で一般廃棄物として廃棄できません。適切なリサイクルのため、同等の新品機器購入時に販売店へ返却するか、指定

回収拠点で廃棄してください。詳細は以下を参照：

<http://www.recyclethis.info>

2006/66/EC（電池指令）：本製品に含まれる電池は、欧州連合（EU）域内で一般廃棄物として廃棄できません。電池の詳細情報は製品文書をご参照ください。電池にはこの記号が表示されており、カドミウム（Cd）、鉛（Pb）、水銀（Hg）を示す文字が含まれる場合があります。適切にリサイクルのため、電池は販売店または指定回収場所に返却してください。詳細は以下を参照：<http://www.recyclethis.info>。



カナダ産業省ICES-003準拠

本装置はCAN ICES-3 (B)/NMB-3(B)規格要件を満たしています。

1. この装置は、カナダ産業省の免許不要RSS規格に準拠しています。動作は以下の2つの条件に従います：この装置は干渉を引き起こしてはならず、
2. 本装置は、装置の意図しない動作を引き起こす可能性のある干渉を含む、あらゆる干渉を受け入れる必要があります。

1. Le présent appareil est conforme aux CNR d'Industrie Canada applicables aux appareils radioexempt de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes : l'appareil ne doit pas produire de brouillage, et
2. 本装置の使用者は、受信したあらゆる電波妨害を受け入れる必要があります。たとえその妨害が本装置の動作を妨げる可能性がある場合でも同様です。

カナダ産業省の規制に基づき、本無線送信機は、カナダ産業省が本送信機に対して承認した種類および最大（またはそれ以下の）利得を有するアンテナのみを使用して動作させることができます。他のユーザーへの潜在的な電波干渉を低減するため、アンテナの種類とその利得は、等価等方放射電力（e.i.r.p.）が通信成功に必要な量を超えないように選択する必要があります。

Conformément à la réglementation d'Industrie Canada, le présent émetteur radio peut fonctionner avec une antenne d'un type et d'un gain maximal (ou inférieur) approuvé pour l'émetteur par Industrie Canada. 他ユーザーへの電波干渉リスクを低減するため、アンテナの種類と利得は、等方放射等価電力（e.i.r.p.）が通信確立に必要な強度を超えないように選択する必要があります。

本機器は、放射体と身体の間で最低20cmの距離を保って設置・操作してください。

この機器は、ラジエーターと身体の間で最低20cmの距離を保って設置および使用してください。




適用モデル

本取扱説明書は、以下のモデルに適用されます。

シリーズ	モデル
DS-7600NI-Q1/W	DS-7604NI-Q1/W
	DS-7608NI-Q1/W
HWN-3100MH-W	HWN-3104MH-W
	HWN-3108MH-W

記号の定義

この文書で使用される記号は、以下のように定義されています。


記号	説明
 危険	回避しなければ死亡または重傷を負う危険な状況を示します。
 注意	回避しなければ、機器の損傷、データの損失、性能の低下、または予期しない結果をもたらす可能性のある潜在的な危険な状況を示します。
 注記	本文の重要な点を強調または補足するための追加情報を提供します。

安全に関する指示

- すべてのパスワードおよびその他のセキュリティ設定の適切な構成は、設置者および / またはエンドユーザーの責任です。
- 製品の使用にあたっては、お住まいの国および地域の電気安全規制を厳守してください。
- プラグを電源コンセントにしっかりと差し込んでください。1つの電源アダプタに複数の機器を接続しないでください。付属品や周辺機器を接続または取り外す前に、デバイスの電源を切ってください。
- 感電の危険！ メンテナンス前には、すべての電源を切ってください。
- 本装置は接地された電源コンセントに接続してください。
- コンセントは機器の近くに設置し、容易にアクセスできること。
- ⚡ は危険な通電状態を示し、端子に接続された外部配線は指導を受けた者による設置が必要です。
- 機器を不安定な場所に設置しないでください。機器が落下し、重大な人身事故や死亡事故を引き起こす恐れがあります。
- 入力電圧は、IEC62368 に準拠した SELV（安全超低電圧）および LPS（限定電源）を満たす必要があります。
- 接触電流が大きい！ 電源に接続する前にアースに接続してください。
- 煙、異臭、または異音が装置から発生した場合は、直ちに電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。その後、サービスセンターまでご連絡ください。
- 本製品はUPSと併用し、可能な限りメーカー推奨のHDDをご使用ください。
- 本製品にはコイン型電池が内蔵されています。誤飲した場合、わずか2時間で重度の内臓やけどを引き起こし、死に至る可能性があります。
- 本機器は、子供がいる可能性のある場所での使用には適していません。
- 注意： 誤った種類の電池と交換すると爆発の危険があります。
- 誤った種類の電池への不適切な交換は、安全装置を無効にする可能性があります（例：一部のリチウム電池タイプの場合）。
- 爆発の原因となるため、電池を火中や高温のオープンに投入したり、機械的に押しつぶしたり切断したりしないでください。
- バッテリーを極端に高温の環境に放置しないでください。爆発や可燃性液体・ガスの漏出の原因となる可能性があります。
- 電池を極端に低い気圧にさらさないでください。爆発や可燃性液体・ガスの漏洩を引き起こす恐れがあります。
- 使用済み電池は指示に従って廃棄してください。
- ファンブレードやモーターに身体の一部が接触しないようにしてください。整備中は電源を切断してください。
- 身体の一部をモーターから遠ざけてください。整備中は電源を切ってください。

予防および注意事項

本装置の接続および操作前に、以下の注意事項をご確認ください：

- 本装置は屋内専用です。液体がなく、換気の良いほこりのない環境に設置してください。
- レコーダーがラックや棚に確実に固定されていることを確認してください。落下による強い衝撃や揺れは、レコーダー内部の精密電子機器を損傷する恐れがあります。
- 本装置は、液体の滴りや飛沫にさらさないでください。また、花瓶など液体を入れた容器を装置の上に置かないでください。
- 点灯したろうそくなどの裸火を機器の上に置かないでください。
- 換気口を新聞紙、テーブルクロス、カーテンなどの物品で覆い、換気を妨げてはいけません。機器をベッド、ソファ、ラグその他の類似の表面に設置して開口部を塞ぐことは絶対に避けてください。
- 特定のモデルでは、AC電源への接続用端子に正しい配線が行われていることを確認してください。
- 特定のモデルでは、必要に応じてIT配電システムへの接続用に機器が設計 改造されています。
-  はバッテリーホルダー本体を示し、はバッテリーホルダー内部の電池セルの位置を示します。
- + は、直流を使用または発生する機器のプラス端子を示します。+ は、直流を使用または発生する機器のマイナス端子を示します。
- 十分な換気のため、機器周囲に最低200 mm (7.87インチ) の距離を確保してください。
- 特定のモデルでは、AC電源への接続のために端子を正しく配線してください。
- ユーザーマニュアルまたは取扱説明書に記載されている電源装置のみを使用してください。
- 本機の USB ポートは、マウス、キーボード、USB フラッシュドライブ、または Wi-Fi ドングルに接続するためにのみ使用してください。
- ユーザーマニュアルまたは取扱説明書に記載されている電源装置のみを使用してください。
- 鋭利な縁や角には触れないでください。

目次

第1章 起動.....	1
1.1 デバイスのアクティベート	1
1.2 ログイン	2
1.2.1 ロック解除パターンを設定.....	2
1.2.2 ロック解除パターンでログイン	3
1.2.3 パスワードによるログイン	3
第2章 ライブビュー.....	5
2.1 GUI 概要	5
2.2 PTZ 制御	6
2.2.1 PTZ パラメータの設定.....	6
2.2.2 PTZ コントロールパネルの紹介	8
2.2.3 プリセットのカスタマイズ	8
2.2.4 パトロールのカスタマイズ	8
2.2.5 パターンをカスタマイズ.....	9
第3章 再生.....	10
3.1 GUI 概要	10
3.2 通常再生	11
3.3 イベント再生.....	12
3.4 クリップをバックアップ	13
第4章 ファイル検索	15
第5章 設定 (簡易モード)	16
5.1 システム設定.....	16
5.1.1 一般	16
5.1.2 ユーザー	17
5.1.3 例外	19
5.1.4 表示	20
5.2 ネットワーク設定	21
5.2.1 一般	21
5.2.2 Hik-Connect	22
5.2.3 メール	23
5.3 カメラ管理.....	25

5.3.1	ネットワークカメラ	25
5.3.2	OSD設定.....	29
5.3.3	イベント.....	30
5.4	録画管理	36
5.4.1	ストレージデバイス	36
5.4.2	録画スケジュールの設定.....	37
5.4.3	録画パラメータの設定	39
5.5	Wi-Fi.....	40
第6章	設定（エキスパートモード）	42
6.1	システム設定.....	42
6.1.1	基本	42
6.1.2	ライブビュー	44
6.1.3	ユーザー.....	46
6.1.4	表示	46
6.2	ネットワーク設定	47
6.2.1	TCP/IP.....	47
6.2.2	DDNS.....	48
6.2.3	NAT	49
6.2.4	NTP.....	50
6.2.5	ポート（詳細設定）	50
6.2.6	ISUP.....	51
6.2.7	Hik-Connect	53
6.2.8	メール.....	53
6.3	カメラ管理.....	53
6.3.1	ネットワークカメラ	53
6.3.2	表示設定.....	59
6.3.3	プライバシーマスク	61
6.4	イベント設定.....	62
6.4.1	通常イベント	62
6.4.2	スマートイベント.....	65
6.4.3	武装スケジュールの設定.....	69
6.4.4	アラーム連動アクションの設定.....	70

6.5 録画管理	73
6.5.1 録画スケジュールの設定	73
6.5.2 録画パラメータの設定	75
6.5.3 ストレージデバイス	76
6.5.4 ストレージモードの設定	78
6.5.5 詳細設定	79
6.6 Wi-Fi	80
第7章 メンテナンス	82
7.1 デフォルトに戻す	82
7.2 検索ログ	82
7.3 システムサービス	82
7.4 アップグレード	83
7.4.1 ローカルアップグレード	83
7.4.2 オンラインアップグレード	84
7.5 Wi-Fi 情報の表示	84
第8章 アラーム	86
8.1 イベントヒントを設定	86
8.2 アラームセンターでアラームを表示	86
第9章 Web操作	87
9.1 はじめに	87
9.2 ログイン	87
9.3 ライブビュー	88
9.4 再生	89
9.5 設定	90
9.6 ログ	90
第10章 付録	92
10.1 用語集	92
10.2 コミュニケーション・マトリックス	93
10.3 デバイスコマンド	94

第1章 起動

1.1 デバイスのアクティベート

初回アクセス時には、管理者パスワードを設定してビデオレコーダーをアクティベートする必要があります。アクティベート前は操作できません。Webブラウザ、SADP、またはクライアントソフトウェア経由でもビデオレコーダーをアクティベートできます。

開始前に

デバイスの電源を入れます。

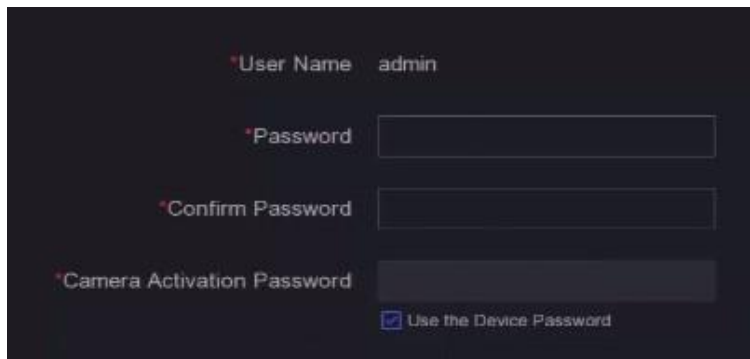
手順

1. 言語を選択してください。
2. 適用をクリックします。
3. パスワードとパスワード確認欄に同じパスワードを入力してください。

警告

強力なパスワードの使用を推奨-製品のセキュリティを強化するため、ご自身で選択した強力なパスワード（8文字以上で、大文字、小文字、数字、特殊文字の少なくとも3種類を含む）の作成を強く推奨します。また、特に高セキュリティシステムでは、パスワードを定期的に（毎月または毎週）リセットすることで、製品をより効果的に保護できます。

4. デバイ스에接続されたネットワークカメラをアクティブ化します。
 - デバイスパスワードを使用して非アクティブなネットワークカメラをアクティブ化するには、「デバイスパスワードを使用する」にチェックを入れます。
 - ネットワークカメラをアクティブ化するためのパスワードを「カメラアクティベーションパスワード」に入力してください。
5. Wi-Fi用の国を選択してください。
6. 「アクティベート」をクリックします。



The screenshot shows a dark-themed web interface for device activation. It contains the following elements:

- A label '*User Name' followed by the text 'admin'.
- A label '*Password' followed by a text input field.
- A label '*Confirm Password' followed by a text input field.
- A label '*Camera Activation Password' followed by a text input field.
- A checkbox labeled 'Use the Device Password' which is checked.

図1-1 アクティベート

次の操作

ウィザードに従って基本パラメータを設定してください。

- パスワードを忘れた場合、パスワードリセットメール、Hik-Connect、セキュリティ質問の3つの方法でリセットできます。少なくとも1つのパスワードリセット方法を設定する必要があります。詳細は「[パスワードリセットメールの設定](#)」および「[Hik-Connectの設定](#)」を参照してください。
- アンロックパターンについては、「[アンロックパターンの設定](#)」を参照してください。
- 一般的なシステムパラメータについては、「[一般設定](#)」を参照してください。
- 一般的なネットワークパラメータについては、「[一般](#)」を参照してください。
- ストレージデバイスの設定については、「[ストレージデバイス](#)」を参照してください。
- ネットワークカメラの追加については、「[ネットワークカメラ](#)」を参照してください。
- Wi-Fi Matchについては、「[Wi-Fiカメラの追加](#)」を参照してください。
- プラットフォーム設定について。詳細は[Hik-Connect](#)を参照してください。

1.2 ログイン

1.2.1 ロック解除パターンの設定

管理者ユーザーはロック解除パターンを使用してログインできます。デバイスのアクティベーション後にロック解除パターンを設定できます。

手順

1. 画面上の9つの点の間でマウスを使ってパターンを描きます。パターンを描き終えたらマウスを離します。



- パターンは最低4つの点で構成する必要があります。
- 各点は1回だけ接続できます。

2. 同じパターンをもう一度描いて確認してください。

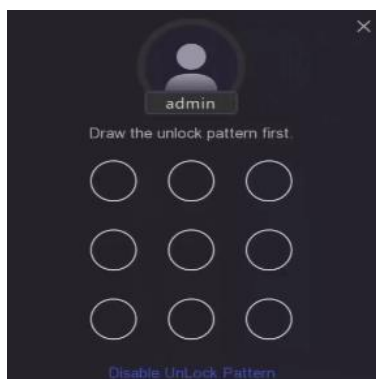


図1-2 ロック解除パターンの設定

2つのパターンが一致した場合、パターン設定は正常に完了します。

1.2.2 アンロックパターンによるログイン

手順

1. ライブビュー上でマウスを右クリックします。

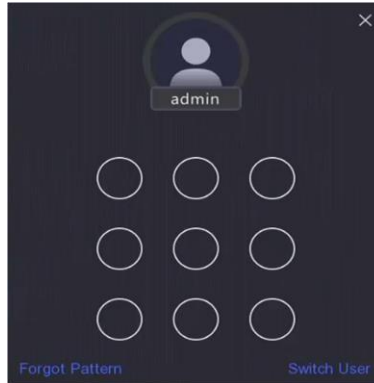


図 1-3 ロック解除パターンの描画

2. メニュー操作に入るために、あらかじめ定義されたパターンを描きます。

注記

- パターンを忘れた場合は、「パターンを忘れた」または「ユーザーを切り替える」をクリックし、パスワードでログインしてください。
 - 間違ったパターンを5回以上入力した場合、システムは自動的に通常のログインモードに切り替わります。
-

1.2.3 パスワードによるログイン

ビデオレコーダーがログアウトしている場合、メニューやその他の機能进行操作する前にログインする必要があります。

手順

1. ユーザー名を選択します。

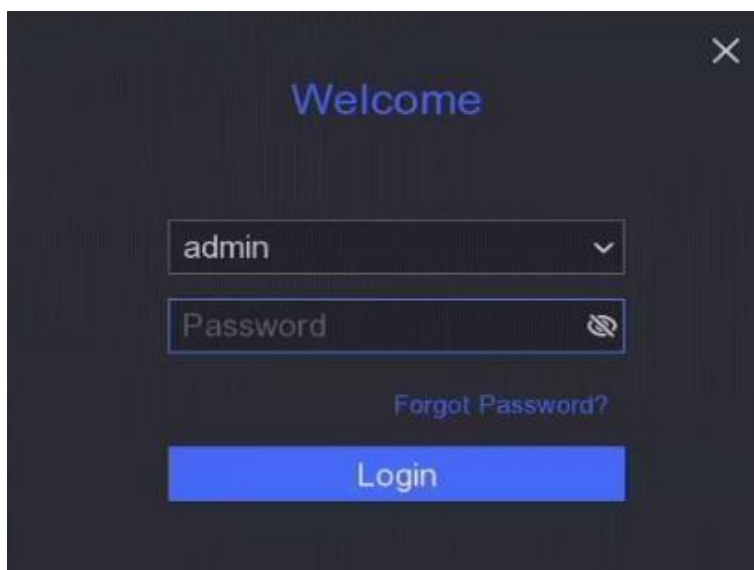


図 1-4 ログインインターフェース

2. パスワードを入力します。
3. ログインをクリックします。



- 管理者のパスワードを忘れた場合は、「パスワードを忘れた場合」をクリックしてパスワードをリセットできます。
 - 間違ったパスワードを7回入力すると、現在のユーザーアカウントは60秒間ロックされます。
-

第2章 ライブビュー

2.1 GUI 概要









-  をクリックすると、自動切り替えの開始/停止が行われます。画面は自動的に次の画面に切り替わります。
- カメラを右クリックするか、 をクリックすると、フルスクリーンモードに入ります。
- カメラをダブルクリックするとシングルスクリーンモードで表示されます。再度ダブルクリックするとシングルスクリーンモードを終了します。
- エラーが発生すると、画面にエラーの説明が表示されます。一部のエラーでは、画面をクリックすることで解決操作に直接アクセスできます。
- カメラのライブビュー画面を変更するには、その画面から目的の画面へドラッグします。
- 上下にスクロールすると、前の画面/次の画面に切り替わります。
-  をクリックすると、温度検出インターフェースに入ります。指定のサーマルカメラが接続されると、撮影された顔写真と温度検出結果を表示できます。
- カメラにカーソルを合わせるとショートカットメニューが表示されます。





図 2-1 ショートカットメニュー

表 2-1 ショートカットメニューの説明

ボタン	説明
	直近5分間に録画された動画の再生を開始します。
	デジタルズーム。ズームイン時間を調整し、目的のエリアを表示できます。
	クリックするとPTZ制御モードに入ります。
	ライブビューの音声のオン/オフを切り替えます。
	映像ストリームを切り替えます。

- ライブビュー画面の右上隅には、各カメラの録画状況やアラーム状態を示すアイコンが表示されます。

表 2-2 ライブビューアイコンの説明

アイコン	説明
	アラーム発生中（通常イベントおよびスマートイベント）。
	録画中。

- マウスを右クリックするとショートカットメニューが表示されます。提供されるオプションは以下の通りです：

表 2-3 右クリックショートカットメニュー

選択	説明
全画面表示	画像全体を表示する。
シングルスクリーン	チャンネルを選択してシングルスクリーンライブビューを開始します。
ウィンドウ分割	画面を分割します。
前の画面	クリックすると前の画面にアクセスします。
次の画面	クリックして次の画面にアクセスします。
自動切り替えを開始	画面の自動切り替えを開始します。
IPカメラを追加	必要に応じてIPカメラを追加するにはクリックしてください。
再生	再生画面へ移動します。
PTZ操作	クリックしてPTZ制御にアクセス
Wi-Fi マッチ	利用可能なWi-Fiカメラを検索して追加します。

2.2 PTZ制御

2.2.1 PTZ パラメータの設定

PTZカメラを制御する前に、PTZパラメータを設定する必要があります。

手順



1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューの  をクリックします。



図 2-2 PTZ 設定

2.  をクリックします。
3. PTZ カメラのパラメータを設定します。



注

すべてのパラメータは PTZ カメラと同じである必要があります。

4. [OK] をクリックします。

2.2.2 PTZ コントロールパネルの概要



表 2-4 PTZ パネルの説明

アイコン	説明
	方向ボタンと自動循環ボタン。
	PTZ動作の速度。
	ズーム -/+。
	フォーカス -/+。
	アイリス -/+

2.2.3 プリセットのカスタマイズ

イベント発生時に PTZ カメラが向くプリセット位置を設定します。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューの「」をクリックします。
2. プリセットリストから目的のプリセットを選択します。
3. 方向ボタンを使用してカメラを必要な位置に移動させます。ズームとフォーカスを任意に調整します。
4.  をクリックしてください。

次にすべきこと



プリセットリストでプリセットをダブルクリックして呼び出します。

2.2.4 パトロールのカスタマイズ

パトロールとは、指定された順序で一連のプリセットで構成される経路を指します。複数のプリセットを監視するための動的なライブ画像を提供します。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、「」ショートカットメニューをクリックします。
2. パトロールをクリックします。

3. クリック  をクリックします。
4. クリック  をクリックします。
5. キーポイント番号、各キーポイントでの滞在時間、パトロール速度などのキーポイントパラメータを設定します。キーポイントはプリセットに対応しています。プリセット番号は、パトロールを循環する際にPTZが追従する順序を決定します。**滞在時間**とは、対応するキーポイントに滞在する時間間隔を指します。**速度**は、PTZが1つのキーポイントから次のキーポイントへ移動する速度を定義します。

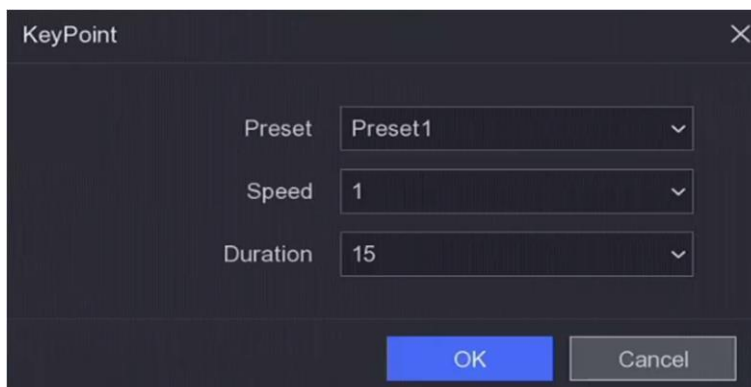


図2-3 パトロール設定

6. [OK]をクリックします。
7. [保存]をクリック
します。次にすべき
こと






パトロールを選択し、経路に沿って移動します。呼び出します。PTZカメラは事前に定義されたパトロール経路に沿って移動します。


2.2.5 カスタムパターン

パターンは、移動経路と特定の位置での滞留時間を記録します。パターンを呼び出すと、PTZカメラは記録された経路に従って移動します。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューの「」をクリックします。
2. **パターン**をクリックします。
3. パターンを選択します。
4.  をクリックします。
5. 方向ボタンを使用してカメラを必要な位置に移動させます。ズームとフォーカスを任意に調整してください。
6.  をクリックしてください。前回のPTZカメラ移動経路がパターンとして記録されます。

次の操作

パターンを選択し、 をクリックして呼び出します。PTZカメラは事前定義されたパターンに従って移動します。

第3章 再生

3.1 GUI 概要

再生に移動します。



図 3-1 再生

表 3-1 再生インターフェースの説明

ボタン	操作	ボタン	操作
	30秒巻き戻し。		30秒早送り。
	全画面表示。		再生開始。
	速度を落とす。		スピードアップ。
	速度。		

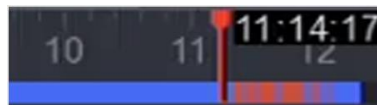


図3-2 タイムライン

- タイムライン上でカーソルを置き、タイムラインをドラッグして特定の時間位置に移動します。
- 青いバーでマークされた期間にはビデオが含まれています。赤いバーは、その期間のビデオがイベントビデオであることを示しています。
- タイムラインを上下にスクロールして、タイムラインをズームアウト/ズームインします。

3.2 通常再生

通常の動画を再生します。

手順

1. 再生に移動します。
2. カメラリストからカメラを選択します。
3. 再生する日付をカレンダーで選択します。



注記

カレンダー日付の隅にある青い三角形は、利用可能な動画があることを示します。例えば、**10** は動画が利用可能であることを意味します。**11** は動画がないことを意味します。

4. オプション：再生ウィンドウにカーソルを合わせるとコントロールバーが表示されます。



図 3-3 コントロールバー表 3-2 ボタ

ン説明

ボタン	説明	ボタン	説明
	ウィンドウ分割、チャンネルをグループ化して再生。		再生画像を拡大/縮小します。
	オーディオのオン/オフを切り替えます。		タグを追加。
	ビデオをロック/ロック解除。		動画をクリップする。
	人間が含まれる動画を表示する。		車両を含む動画を表示する。
通常の動画をスキップ	/ をクリックすると、デバイスは他の動画を非表示にし、人物または車両を含む動画のみを表示・再生します。		

ボタン	説明	ボタン	説明
	再生		

3.3 イベント再生

イベント再生モードを選択すると、システムは、動き検出、ライン越え検出、侵入検出の情報を含むビデオを分析し、マークを付けます。

開始前に

- カメラで**デュアルVCA**が有効になっていることを確認してください。カメラのウェブブラウザインターフェースで設定できます：**設定** → **ビデオ/オーディオ** → **ストリーム上の表示情報**。
- ビデオレコーダーで「**VCAデータ保存**」が有効になっていることを確認してください。**設定** → **記録** → **詳細**で有効化できます。**記録** → **詳細設定**で有効にできます。

手順

1. 再生に移動します。
2. [イベント]をクリックします。
3. カメラを選択します。







図 3-4 イベント再生

4. 再生ウィンドウにカーソルを合わせてコントロールバーを表示します。

表 3-3 ボタン説明

ボタン	説明	ボタン	説明
	タグを追加します。		再生画像を拡大/縮小します。
	ビデオをクリップ。		動画のロック/ロック解除。

ボタン	説明	ボタン	説明
	検出エリアを設定します。		音声のオン/オフを切り替えます。

5.  をクリックして、ラインクロス検知、侵入検知、または動き検知の検知エリアを設定します。
6. クリップ  をクリックして動画を検索します。検知ルールを満たす動画は赤色でマークされます。
7. 再生戦略  設定するには  再生戦略を設定します。

通常の動画を再生しない

有効にすると、スマート情報のない動画は再生されません。

通常動画

通常動画再生速度を設定します。このオプションは「**通常の動画を再生しない**」がオフの場合にのみ有効です。

スマート/カスタム動画の再生速度

スマート情報を持つ動画の再生速度を設定します。このオプションは「**通常動画を再生しない**」が有効な場合のみ有効です。

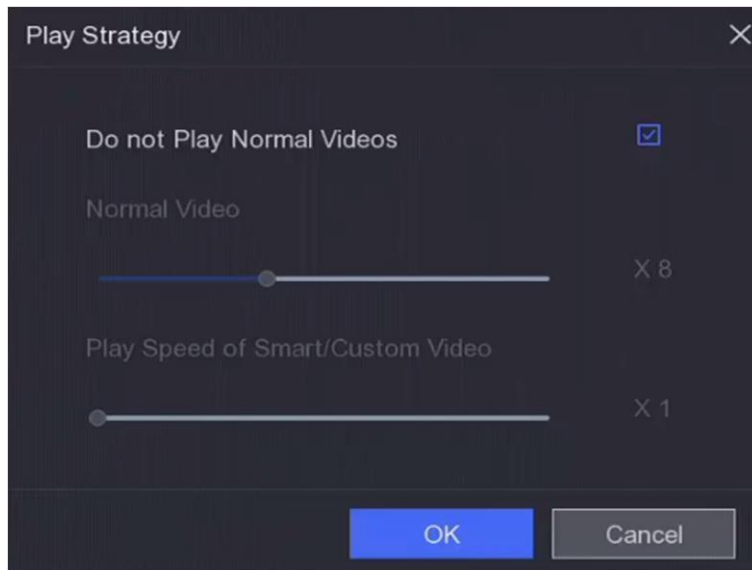


図3-5 再生戦略

3.4 クリップのバックアップ


再生中にビデオをクリップできます。ビデオクリップはバックアップデバイス（USBフラッシュドライブなど）にエクスポートできます。

ドライブなど)にエクスポートできます。

開始前に

ビデオレコーダーにバックアップデバイスを接続してください。

手順

1. 再生を開始します。詳細は [通常再生](#) を参照してください。
2.  をクリックしてください。
3. 開始時間と終了時間を設定します。タイムバー上のカーソルを調整して期間を設定することもできます。
4. **[保存]** をクリックします。
5. バックアップデバイスとフォルダを選択します。
6. **[保存]** をクリックしてクリップをバックアップデバイスにエクスポートします。

第4章 ファイル検索

手順

1. **検索**に移動します。

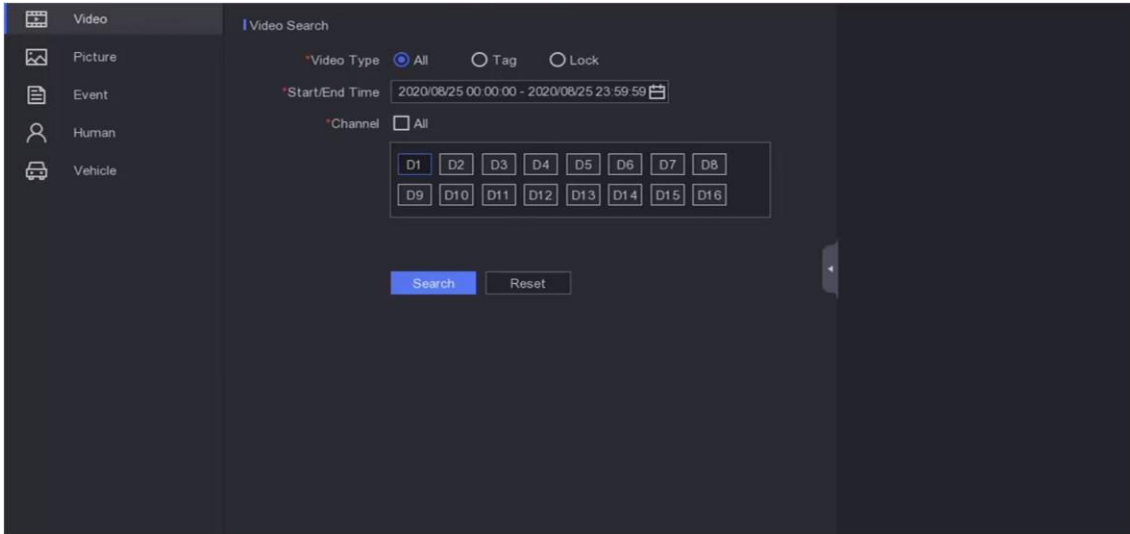




図 4-1 検索

2. 検索タイプ（ビデオ、写真、イベントなど）を選択します。
3. 検索条件を設定します。
4. **検索**をクリックします。
 - － クリック  をクリックしてビデオを再生します。
 - － クリック  ファイルをロックします。ロックされたファイルは書き換えられません。
 - － ファイルを選択し、「**エクスポート**」をクリックすると、ファイルがバックアップデバイスにエクスポートされます。

第5章 設定（簡易モード）

イージーモードには基本設定が含まれます。**設定**に移動し、**イージーモード**をクリックしてください。

5.1 システム設定

5.1.1 一般

出力解像度、システム時刻などを設定できます。

手順

1. **設定** → **システム** → **一般** に移動します。

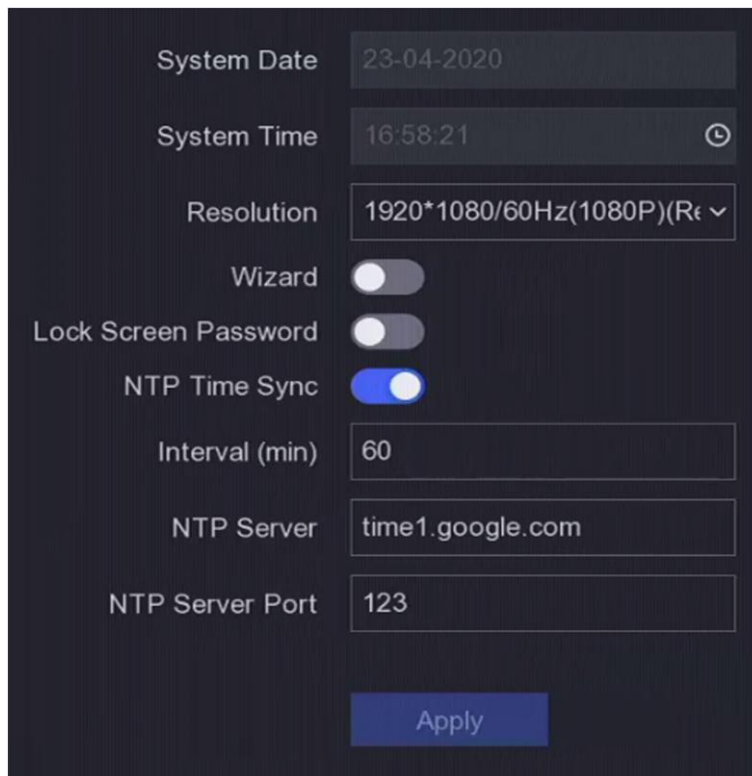


図5-1 一般設定

2. 必要に応じてパラメータを設定します。

ウィザード

デバイス起動後にウィザードが表示されます。

ロック画面のパスワード

画面がロックされている場合は、パスワードを入力する必要があります。

NTP 時刻同期

ネットワークタイムプロトコル (NTP) は、時刻同期のためのネットワークプロトコルです。デバイスは NTP (ネットワークタイムプロトコル) サーバーに接続して時刻を同期することができます。

間隔 (分)

NTPサーバーとの2回の時刻同期の間隔時間。

NTP サーバー

NTPサーバーのIPアドレス。

- 適用をクリックします。

5.1.2 ユーザー

ユーザーを追加

デフォルトアカウントとして「Administrator」が存在します。管理者ユーザー名は「admin」です。管理者はユーザーの追加、削除、編集権限を有します。ゲストユーザーはライブビュー、再生、ログ検索の権限のみを有します。

手順

- 設定 → システム → ユーザーに移動します。
- 「追加」をクリックし、管理者パスワードを確認します。

The image shows a dark-themed dialog box titled "Add User" with a close button (X) in the top right corner. It contains three text input fields: "User Name", "Create Password", and "Confirm". Below the "Create Password" field is a "User Level" dropdown menu currently set to "Guest". Underneath the dropdown, there is a line of text: "A normal user only has permissi...". At the bottom of the dialog, there are two buttons: "OK" and "Cancel".

図5-2 ユーザー追加

- ユーザー名を入力します。
- パスワードと確認欄に同じパスワードを入力します。

警告

製品のセキュリティを強化するため、ご自身で選択した強力なパスワード（8文字以上、大文字、小文字、数字、特殊文字のうち少なくとも3種類を含む）を作成することを強くお勧めします。また、特にセキュリティレベルの高いシステムでは、パスワードを定期的リセットすることをお勧めします。毎月または毎週パスワードをリセットすることで、製品をより確実に保護することができます。

5. [OK] をクリックします。

- ユーザーを編集/削除するには、/ をクリックしてください。

パスワード再設定用メールアドレスの設定

ログインパターンとパスワードを忘れた場合、デバイスはパスワードリセット用の確認コードを含むメールを登録メールアドレスに送信します。


手順

1. 設定 → システム → ユーザー に移動します。
2. パスワードリセット用メール をクリックします。
3. 認証のため管理者パスワードを入力してください。
4. メールアドレスを入力します。
5. OK をクリックします。

ロック解除パターンの編集

管理者ユーザーはロック解除パターンを使用してログインできます。ロック解除パターンを変更したり、無効にしたりできません。

手順

1. 設定 → ユーザー に移動します。
2.  をクリックしてください。
3. 管理者パスワードを入力してください。
4. 「アンロックパターン」 をクリックしてください。
5. 必要に応じて機能をオン/オフにします。
6. 機能が有効な場合、アンロックパターンを設定します。
 - 1) 画面上の9つの点の間でマウスを使ってパターンを描きます。パターンを描き終えたらマウスを離します。



注意

- パターンは最低4つの点で構成されている必要があります。
- 各ドットは1回のみ接続できます。

2) 同じパターンをもう一度描いて確認してください。

7. OK をクリックしてください。

パスワードの編集

デバイスのパスワードをお持ちの場合は、新しいパスワードに変更できます。管理者ユーザーは他のユーザーのパスワードを変更できます。

手順

1. **設定** → **ユーザー** に移動します。
2. パスワードを編集します。
 - ゲストユーザーの場合は、古いパスワードと新しいパスワードを入力します。
 - 管理者ユーザーの場合は、 をクリックして新しいパスワードを設定します。
3. **OK** をクリックします。



管理者パスワードを変更した場合、以前のロック解除パターンはクリアされます。

パスワードのリセット

ログインパターンとパスワードを忘れた場合、パスワードをリセットできます。


手順

1. パスワードログイン画面で「**パスワードを忘れた場合**」をクリックしてください。
2. プライバシーポリシーに同意する場合は「**次へ**」をクリックしてください。QRコードをスキャンして内容を確認することもできます。
3. ウィザードに従ってパスワードをリセットしてください。

5.1.3 例外

アラームセンターで例外イベントのヒントを受け取り、例外連動アクションを設定できます。

手順

1. **設定** → **システム** → **例外** に移動します。
2. オプション: イベントヒントを設定します。設定したイベントが発生すると、アラームセンターで通知を受け取ります。
 - 1) **イベントヒントを有効にする**。
 - 2) ローカルメニューの右上隅にある「」をクリックしてアラームセンターに入ります。
 - 3) イベントタイプを選択します。
 - 4) ヒントを表示するイベントを選択するには「**設定**」をクリックします。
3. **例外タイプ**を設定
4. 例外連動アクションには「**通常連動**」と「**アラーム出力トリガー**」タイプを選択します。

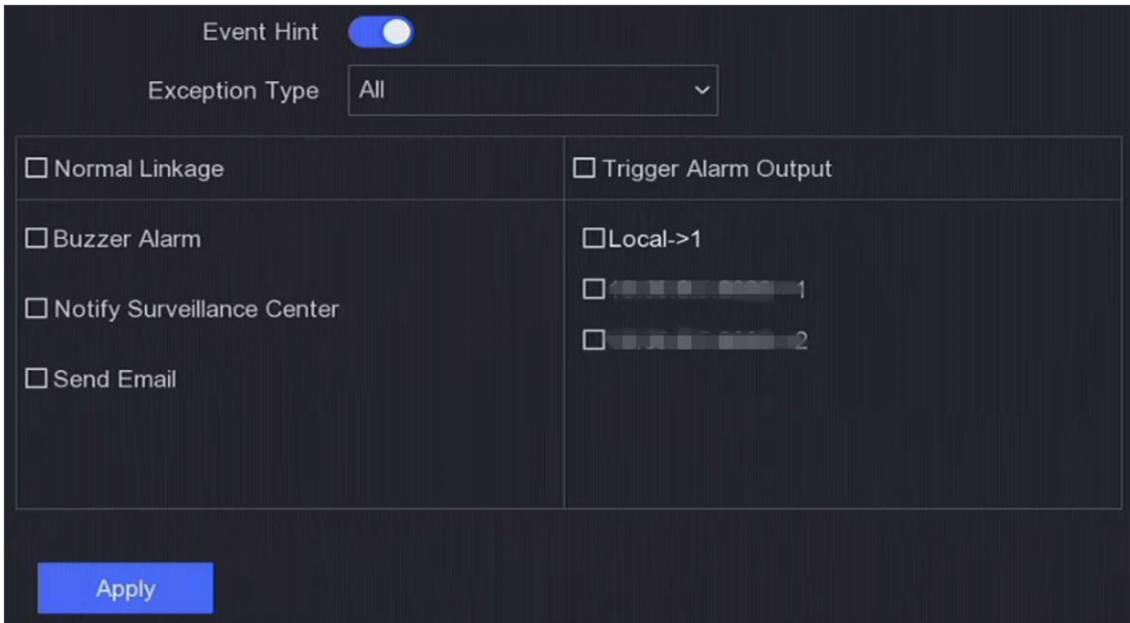


図 5-3 例外

5. **適用**をクリックします。

5.1.4 表示

LCD 画面の輝度と画面オフ時間を設定できます。

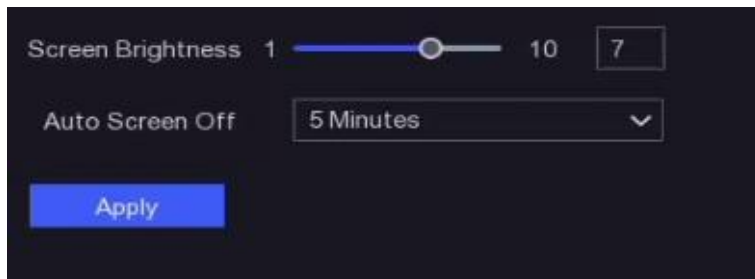
手順



注記

この機能は、LCDディスプレイを搭載したデバイスでのみ利用可能です。

1. **設定** → **システム** → **ディスプレイ** に移動します。



2. 画面の明るさと**自動画面オフ**を好みに合わせて設定してください。

画面の明るさ

LCD 画面の輝度。

自動画面オフ

デバイスが指定時間アイドル状態になると、LCD 画面が自動的にオフになります。

デバイスの側面パネルにある電源ボタンを押すか、マウスを動かすと画面が点灯します。



電源ボタンを5秒以上押し続けると、デバイスがシャットダウンします。

3. **適用**をクリックしてください。

5.2 ネットワーク設定

5.2.1 一般

ネットワーク経由でデバイスを操作する前に、ネットワーク設定を適切に構成してください。

手順

1. **設定** → **ネットワーク** → **一般** に移動します。

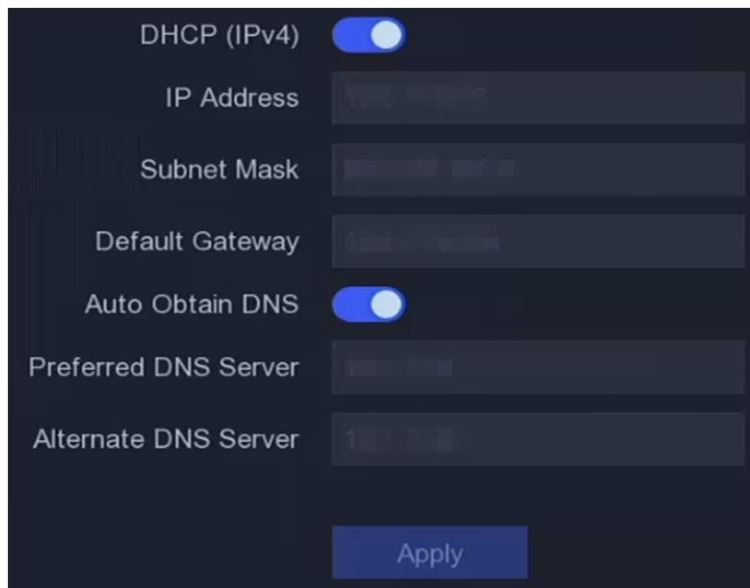


図5-4 ネットワーク

2. ネットワークパラメータを設定します。

DHCP

DHCP サーバーが利用可能な場合、**DHCP** を有効にして、そのサーバーから IP アドレスやその他のネットワーク設定を自動的に取得することができます。

DNS の自動取得

DHCP が有効になっている場合、**優先DNSサーバー**と**代替DNSサーバー**を自動的に取得するには「**DNSの自動取得**」を有効にできます。

3. **適用**をクリックします。

5.2.2 Hik-Connect

Hik-Connect は、接続されたデバイスにアクセスして管理するための携帯電話アプリケーションおよびプラットフォームサービスを提供し、ビデオセキュリティシステムへの便利なリモートアクセスを実現します。

手順



1. 設定 → ネットワーク → Hik-Connect に移動します。
2. 「有効化」をオンにします。サービス利用規約が表示されます。
 - 1) QRコードをスキャンして利用規約とプライバシーポリシーをお読みください。
 - 2) サービス利用規約とプライバシーポリシーを読み、同意します。にチェックを入れてください。
 - 3) OKをクリックしてください。
3.  をクリックして認証コードを設定してください。
4. オプション：プラットフォーム時間同期を有効にすると、デバイスはNTPサーバーではなくプラットフォームサーバーと時間を同期します。
5. オプション：ストリーム暗号化を有効化します。この機能を有効化すると、リモートアクセスおよびライブビュー時に検証コードの入力が必要になります。
6. オプション：サーバーIPを編集します。
7. デバイスをHik-Connectアカウントに紐付けます。
 - 1) スマートフォンでQRコードをスキャンし、Hik-Connect アプリをダウンロードしてください。
<https://appstore.hikvision.com> または下記のQRコードからもダウンロード可能です。詳細はHik-Connect モバイルクライアントユーザーマニュアルを参照してください。



図5-5 Hik-Connectのダウンロード

- 2) Hik-ConnectでデバイスのQRコードをスキャンし、デバイスを紐付けます。



- デバイスが既にアカウントに紐付けされている場合、「紐付け解除」をクリックすると現在のアカウントとの紐付けを解除できます。
- 左上の「」にあるQRコードを使用して、Hik-Connectをダウンロードし、デバイスを紐付けることもできます。

8. 適用をクリックします。

結果

- お使いのデバイスがHik-Connectプラットフォームに接続されている場合、**接続状態**は「オンライン」となります。
- デバイスが Hik-Connect アカウントに紐付けられている場合、**紐付け状態**は「はい」となります。

次の操作

Hik-Connect経由でビデオレコーダーにアクセスできます。

5.2.3 メール

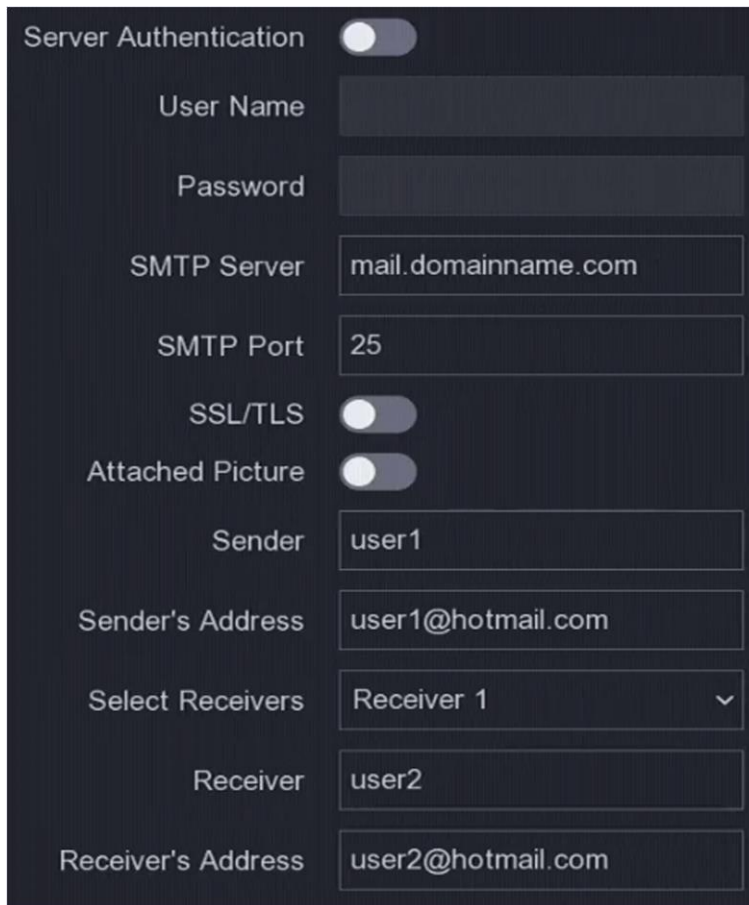
イベント通知を受信するメールアカウントを設定します。

ご利用前に

- メール SMTPサービスが利用可能であることを確認してください。
- ネットワークパラメータを設定します。詳細は「[基本設定](#)」を参照してください。

手順

1. 設定 → ネットワーク → メール に移動します。



The screenshot shows a dark-themed configuration window for email settings. It includes the following fields and controls:

- Server Authentication: A toggle switch that is currently turned off.
- User Name: A text input field.
- Password: A text input field.
- SMTP Server: A text input field containing "mail.domainname.com".
- SMTP Port: A text input field containing "25".
- SSL/TLS: A toggle switch that is currently turned off.
- Attached Picture: A toggle switch that is currently turned off.
- Sender: A text input field containing "user1".
- Sender's Address: A text input field containing "user1@hotmail.com".
- Select Receivers: A dropdown menu showing "Receiver 1".
- Receiver: A text input field containing "user2".
- Receiver's Address: A text input field containing "user2@hotmail.com".

図5-6 メール

2. メールパラメータを設定します

サーバー認証

サーバー認証機能を有効にするにはチェックを入れてください。

ユーザー名

SMTP サーバー認証用のメール送信者のユーザーアカウント。

パスワード

SMTP サーバー認証用のメール送信者のパスワード。

SSL/TLS

(オプション) SMTP サーバーで必要とされる場合は、SSL/TLS を有効にしてください。

添付画像

(オプション) イベントが発生した場合、画像をメールの添付ファイルとして送信します。

送信者

送信者名。

送信者アドレス

送信者のメールアドレス。

受信者を選択

受信者を選択してください。最大3人まで選択可能です。

受信者

受信者名。

受信者の住所

受信者のメールアドレス。



ネットワークカメラの場合、イベント画像はメールの添付ファイルとして直接送信されます。1台のネットワークカメラは1枚の画像のみ送信します。

3. オプション: 「テスト」をクリックしてテストメールを送信します。
4. 適用をクリックします。

5.3 カメラ管理

5.3.1 ネットワークカメラ

Wi-Fi経由でネットワークカメラを追加Wi-Fiカメラ

を追加

Wi-Fiマッチ機能を使用すると、未アクティベート状態のWi-Fiカメラを検索し、自動的にデバイスに追加できます。ライブビューモードで右クリックメニューから「**Wi-Fiマッチ**」を選択すると、デバイスがWi-Fiカメラを検索・追加します。この処理には約2分かかります。Wi-Fiカメラのパスワードには「**IPカメラアクティベーションパスワード**」が使用されます。（[「デバイスのアクティベート](#)」を参照）

注意

- Wi-Fiカメラとデバイス間の距離は50メートル以内に保つことを推奨します。
- この機能に対応しているのは特定のWi-Fiカメラモデルおよびバージョンに限られます。
- Wi-Fiカメラの電源がオンになっていること、アクティベートされていないこと、ネットワークケーブルで他のデバイスに接続されていないことを確認してください。
- キット内では、Wi-Fiカメラは自動的にNVRに接続されます。

デバイスのパスワードでネットワークカメラを追加

ビデオレコーダーと同じパスワードを持つネットワークカメラを追加します。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。詳細は [「一般」](#) を参照してください。
- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダーと同一であることを確認してください。

手順

1. **設定** → **カメラ** → **IPカメラ** に移動します。ビデオレコーダーと同じネットワークセグメント上のオンラインカメラが「**オンラインデバイス一覧**」に表示されます。

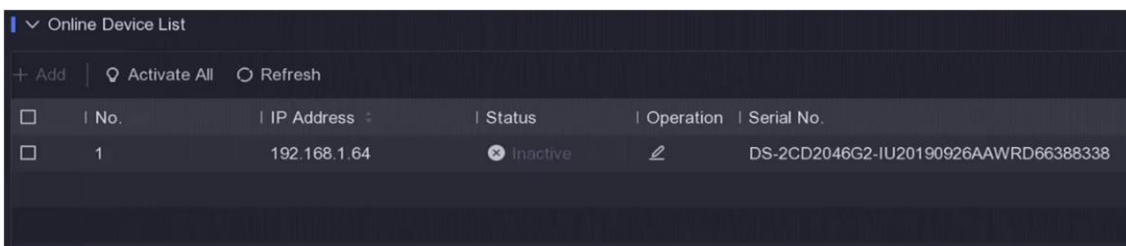



図 5-8 IP カメラ管理インターフェース

2. 目的のネットワークカメラを選択します。

3.  をクリックしてカメラを追加します。




カメラが非アクティブ状態の場合、デバイスはデバイス起動時に設定したパスワードで自動的にカメラを起動します。

ネットワークカメラを手動で追加する

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。
- ネットワークカメラが起動していることを確認してください。

手順

1. **設定** → **カメラ** → **IPカメラ** に移動します。
2. **追加済みデバイス一覧**で「」をクリックします。
3. ネットワークカメラのパラメータを設定します。これにはIPアドレス、プロトコル、管理ポートなどが含まれます。
4. オプション: 「**カメラ起動パスワードを使用**」を有効にすると、デバイスのパスワードを使用してネットワークカメラを追加できます。
5. オプション: 「**さらに追加**」をクリックして別のネットワークカメラを追加します。
6. **[追加]** をクリックします。

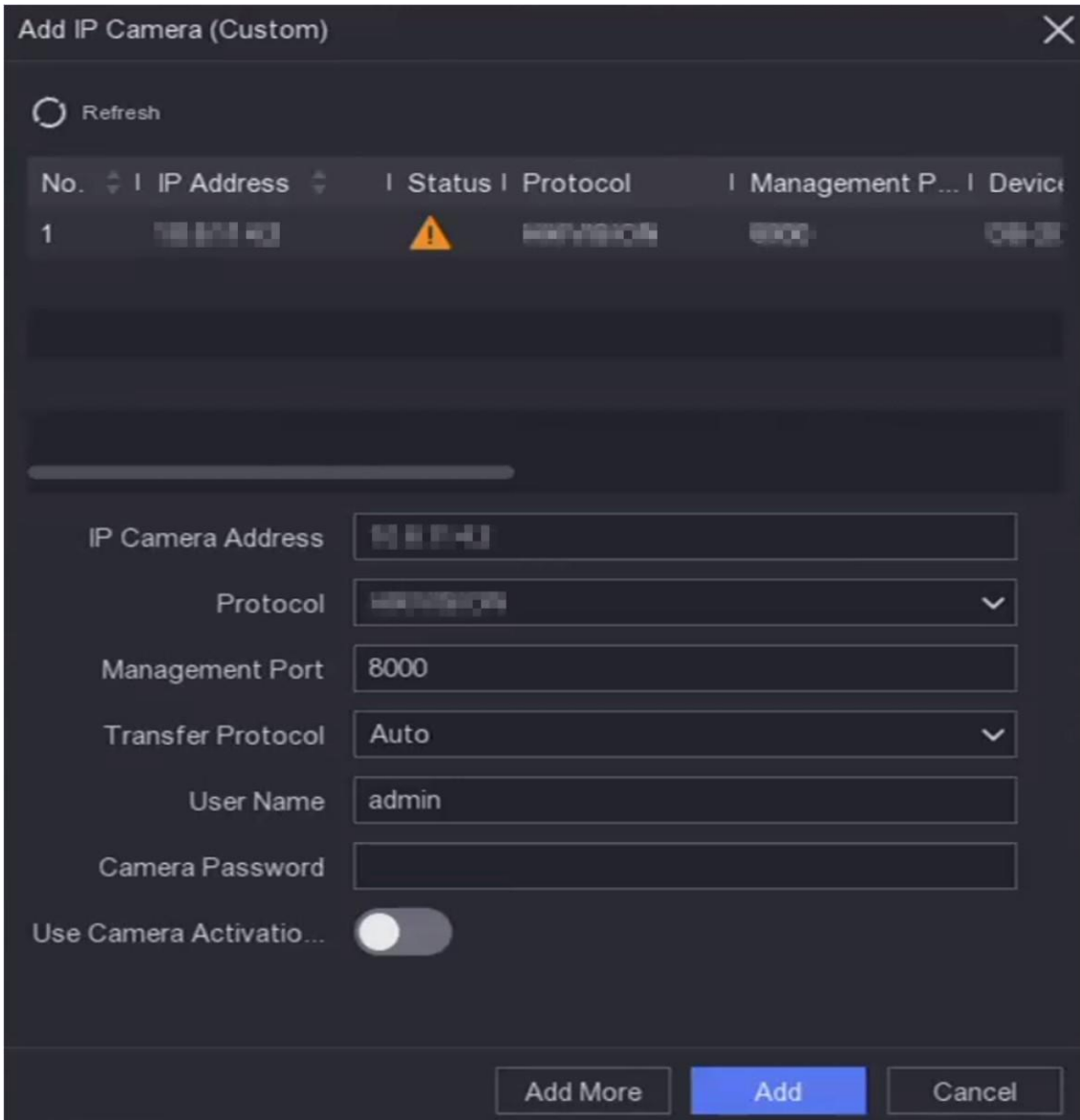



図 5-9 ネットワークカメラの追加

接続済みネットワークカメラの編集

追加したネットワークカメラの IP アドレス、プロトコル、その他のパラメータを編集できます。

手順

1. 設定 → カメラ → IP カメラ に移動します。
2.  をクリックして、選択したカメラを編集します。

チャンネルポート

接続されたデバイスが複数のチャンネルを持つエンコーディングデバイスである場合、接続するチャンネルを選択するためにチャンネルポート番号を選択できます。

3. OK をクリックします。


ネットワークカメラのアップグレード

ネットワークカメラは、デバイスを介してリモートでアップグレードできます。

開始する前に

- USB フラッシュドライブがデバイスに挿入されており、ネットワークカメラのアップグレードファームウェアが含まれていることを確認してください。
- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。

手順

1. **設定** → **カメラ** → **IPカメラ** に移動してください。
2.  「」をクリックします。
3. 確認のため「はい」をクリックします。
4. ストレージデバイスからカメラのアップグレード用ファームウェアを選択します。
5. **アップグレード** をクリックしてアップグレードを開始します。アップグレード完了後、カメラは自動的に再起動します。


カメラの詳細パラメータを設定する

カメラの IP アドレス、カメラのパスワードなどの高度なカメラパラメータを設定できます。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。

手順

1. **設定** → **カメラ** → **IPカメラ** に移動してください。
2.  「」をクリックします。
3. IPアドレスやカメラパスワードなどのカメラパラメータを設定します。
4. **適用** をクリックします。

詳細設定

手順

1. **設定** → **カメラ** → **IPカメラ** に移動します。
2. **詳細** をクリックします。
3. ご希望のパラメータを設定してください。

H.265自動切り替え設定

このオプションを有効にすると、デバイスはネットワークカメラ（H.265 ビデオ形式をサポートしているもの）に対して、初回アクセス時に自動的に H.265 ストリームに切り替わります。

アップグレード

追加したネットワークカメラをアップグレードします。

エクスポート/インポート

追加されたネットワークカメラの情報は、IPアドレス、ポート、管理者パスワードなどを含むExcelファイルとして生成され、バックアップのためにローカルデバイスにエクスポートできます。エクスポートされたファイルは、内容の追加や削除など、コンピューター上で編集可能です。また、Excelファイルを他のデバイスにインポートすることで、設定をコピーできます。

プロトコル

標準プロトコルで設定されていないネットワークカメラを接続するには、カスタムプロトコルを設定できます。システムは16種類のカスタムプロトコルを提供します。

カメラ起動パスワード設定

ネットワークカメラの起動および追加用のデフォルトパスワードを変更します。既に接続済みのネットワークカメラについては、以下のポップアップウィンドウでパスワードをこの値に変更するかどうかを選択できます。

一括設定

選択したネットワークカメラの時刻を自動的に同期できます。

ワイヤレスカメラアクセス設定

ネットワーク帯域幅やデバイスリソースが不足している場合、無線カメラのサブストリームを無効化することで、無線カメラへのアクセス安定性を向上させることができます。



この機能はデフォルトで無効になっています。ワイヤレスカメラのサブストリームを無効にする場合、デバイスを再起動する必要があります。

チャンネルの並べ替え

チャンネルレイアウトウィンドウはチャンネル番号順に並べ替えられます。ウィンドウをドラッグすることで、カメラにリンクされたチャンネル番号を変更できます。



チャンネルを並べ替えた後、デバイスはネットワークカメラに再接続します。

5.3.2 OSD設定

カメラのOSD（オンスクリーンディスプレイ）設定（日付形式、カメラ名など）を構成します。

手順

1. 設定 → カメラ → OSD に移動します。
2. カメラを選択します。

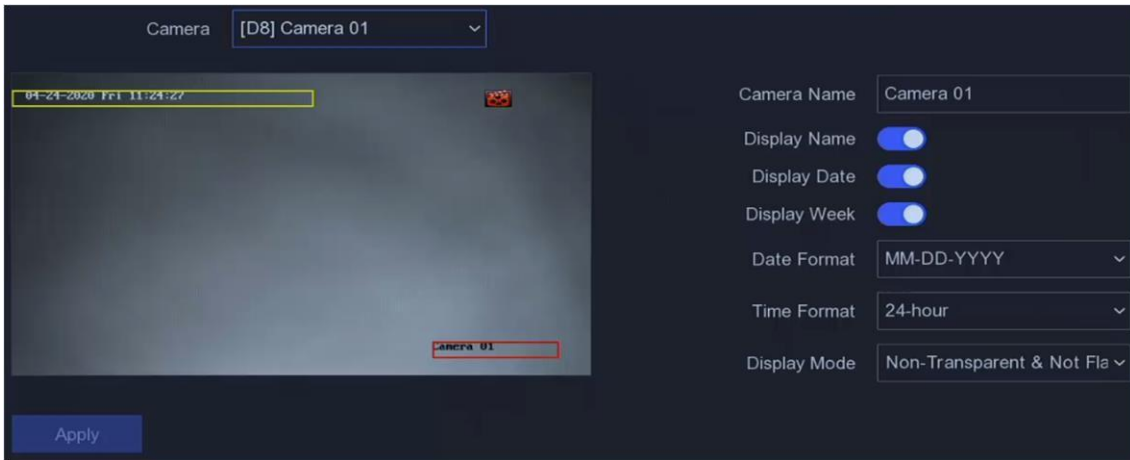


図 5-10 OSD

3. パラメータを任意に設定します。
4. プレビューウィンドウ上のテキストフレームをドラッグして、OSD の位置を調整します。
5. 適用をクリックします。

5.3.3 イベント

モーション検知

モーション検知により、ビデオレコーダーは監視エリア内の動く物体を検知し、アラームをトリガーすることができます。

手順

1. 設定 → カメラ → イベント → モーション検知 に移動します。

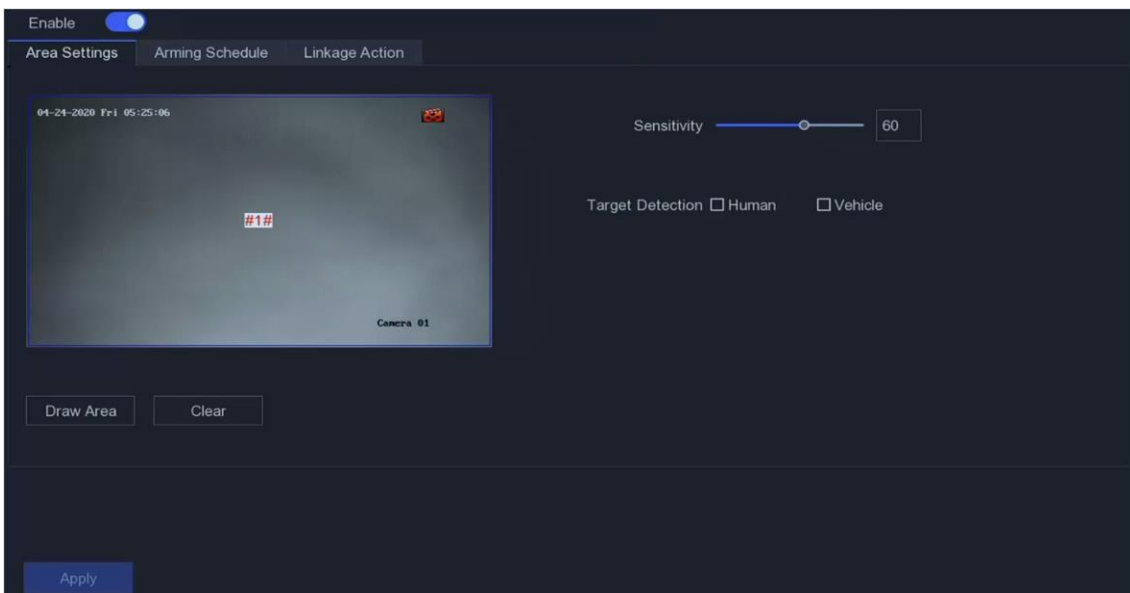


図5-11 モーション検知

2. カメラを選択してください。
3. **有効化**をオンにします。
4. モーション検知エリアを設定します。
 - ー 領域を描画またはクリアするには、**[領域を描画]** または **[クリア]** をクリックします。最初の領域はデフォルトで全画面に設定されます。
 - ー 「**全画面**」をクリックすると、モーション検知エリアが全画面に設定されます。プレビューウィンドウ上でドラッグしてモーション検知エリアを描画できます。
5. **感度**を調整します。感度を調整することで、動きがアラームをトリガーする容易さを調整できます。値が高いほど、動き検出がより容易にトリガーされます。
6. オプション: **ターゲット検出**を「**人**」または「**車両**」に設定し、人体や車両以外の検知による誤警報を排除します。この機能は特定のカメラモデルのみ対応しています。



注記

この機能は特定のモデルでのみ利用可能です。

7. 武装スケジュールを設定します。詳細は「[武装スケジュールの設定](#)」を参照してください。
8. 連動動作を設定します。詳細は「[警報連動動作の設定](#)」を参照してください。
9. **適用**をクリックします。

ライン横断検知

ライン越え検知は、設定された仮想ラインを越える人物、車両、物体を検知します。検知方向は双方向、左から右、または右から左に設定できます。

手順

1. **設定** → **カメラ** → **イベント** → **ライン横断** に移動します。

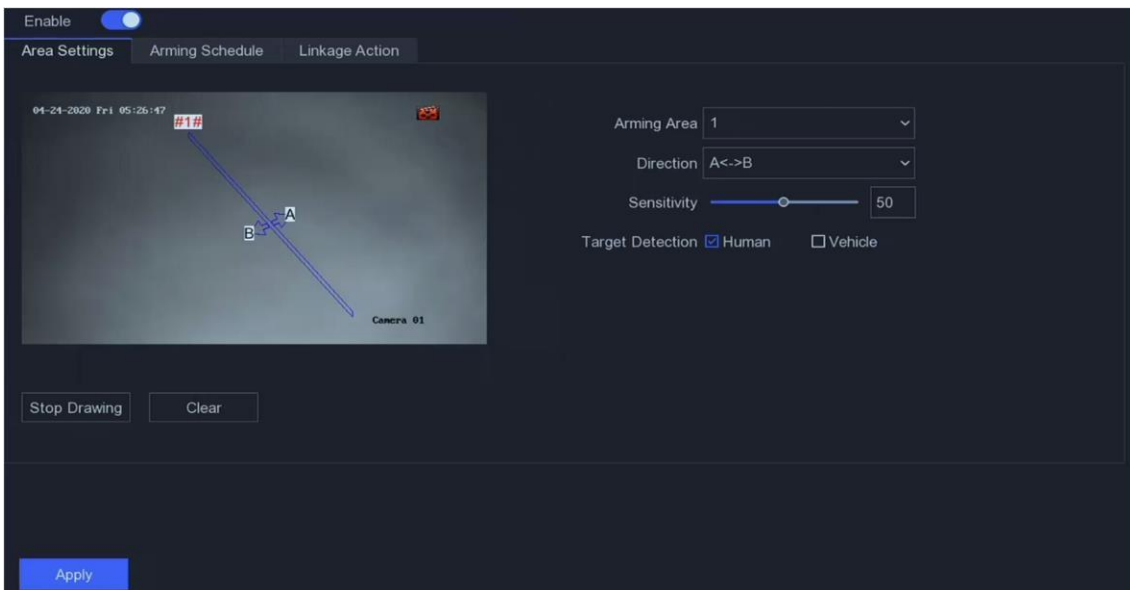


図 5-12 ライン横断検知

2. カメラを選択します。
3. **有効化**をオンにします。

4. ライン越え検知ルールと検知エリアを設定します。

1) **武装エリア**を設定します。最大4つの武装エリアを選択可能です。

2) **方向**を **A<->B**、**A->B**、または **A<-B** から選択します。

A<->B

B側の矢印のみが表示されます。設定されたラインを両方向から横切る物体を検知し警報を発します。

A->B

A側からB側へ設定ラインを越える対象物のみ検出可能。

B->A

設定されたラインをB側からA側へ横切る物体のみが検出可能です。

3) **感度**を設定します。値が高いほど、検知アラームが容易に作動します。

4) オプション：人体または車両以外の警報を排除するため、**対象検出**を「人」または「車両」に設定します。

5) 「**領域を描画**」をクリックし、プレビューウィンドウで2点を設定して仮想ラインを描画します。

5. 武装スケジュールを設定します。詳細は「[武装スケジュールの設定](#)」を参照してください。

6. 連動動作を設定します。詳細は「[警報連動動作の設定](#)」を参照してください。

7. **適用**をクリックします。

侵入検知

侵入検知は、あらかじめ定義された仮想領域に侵入し、その領域に留まる人物、車両、または物体を検知します。

手順

1. **設定** → **カメラ** → **イベント** → **侵入** を選択します。

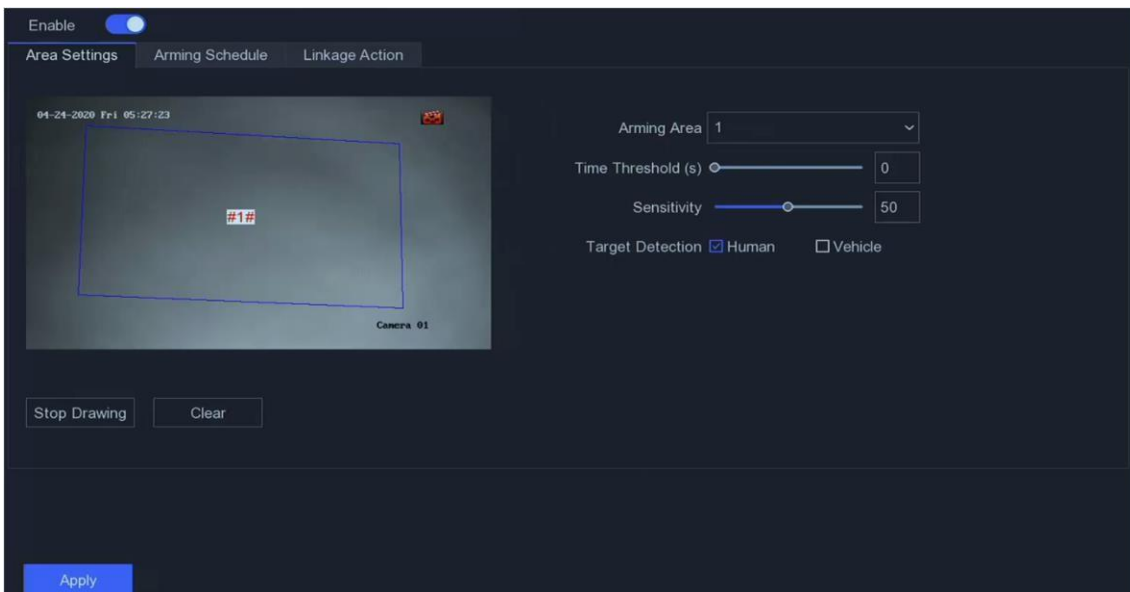


図 5-13 侵入検知

2. カメラを選択します。
3. **有効化**をオンにします。
4. 検知ルールと検知エリアを設定します。
 - 1) **警戒区域**の設定。最大4つの警戒区域を選択可能。
 - 2) **感度**設定。警報をトリガーできる対象物のサイズ。値が高いほど検知警報が容易に作動します。範囲は[1-100]です。
 - 3) オプション：**ターゲット検出**を「**人**」または「**車両**」に設定し、人体や車両以外で発生した警報を排除します。
 - 4) 「**エリア描画**」をクリックし、四角形の検知領域を描画します。
5. 武装スケジュールを設定します。詳細は「[武装スケジュールの設定](#)」を参照してください。
6. 連動アクションを設定します。詳細は「[アラーム連動アクションの設定](#)」を参照してください。
7. **適用**をクリックします。

領域進入検知

領域進入検出は、あらかじめ定義された仮想領域に進入するオブジェクトを検出します。

手順

1. **設定** → **カメラ** → **イベント** → **領域進入** に移動します。

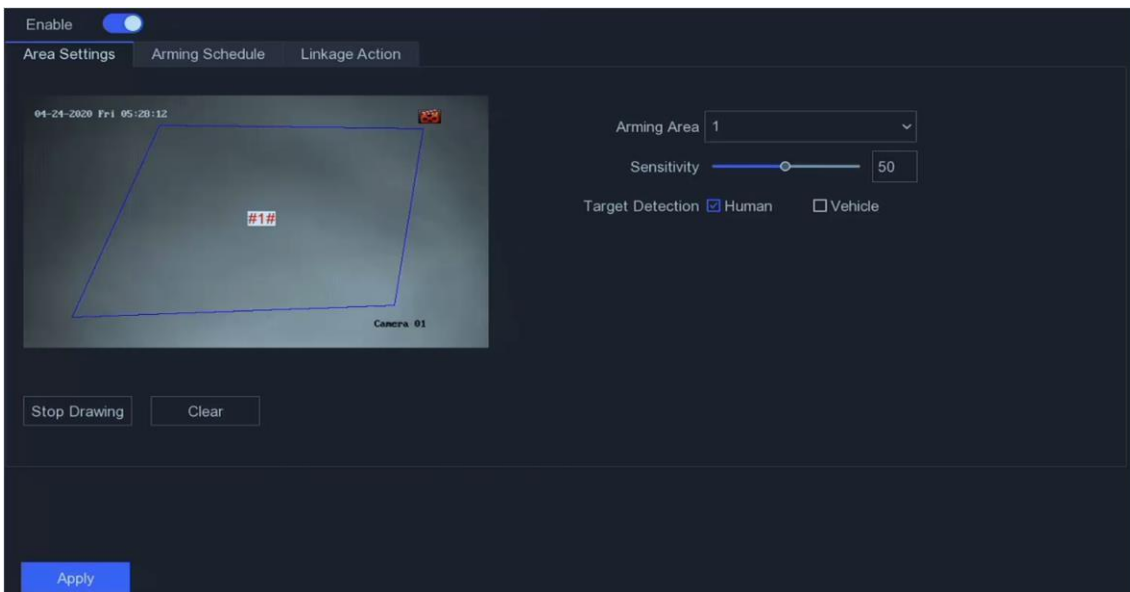


図 5-14 領域進入検知

2. カメラを選択します。
3. **有効化**をオンにします。
4. 検知ルールと検知エリアを設定します。
 - 1) **警戒エリア**を設定します。最大4つの警戒エリアを選択できます。
 - 2) **感度**を設定します。値が高いほど、検知アラームが作動しやすくなります。設定範囲は[1-100]です。
 - 3) オプション：**ターゲット検出対象**を「**人間**」または「**車両**」に設定し、人体や車両以外によって引き起こされた警報を排除します。

- 4) 「領域を描画」をクリックし、四角形の検知領域を描画します。
5. 武装スケジュールを設定します。詳細は「[武装スケジュールの設定](#)」を参照してください。
6. 連動アクションを設定します。詳細は「[警報連動アクションの設定](#)」を参照してください。
7. 適用をクリックします。

区域退出検知

領域退出検知は、事前定義された仮想領域から退出する物体を検出します。

手順

1. 設定 → カメラ → イベント → 領域退出 に移動します。

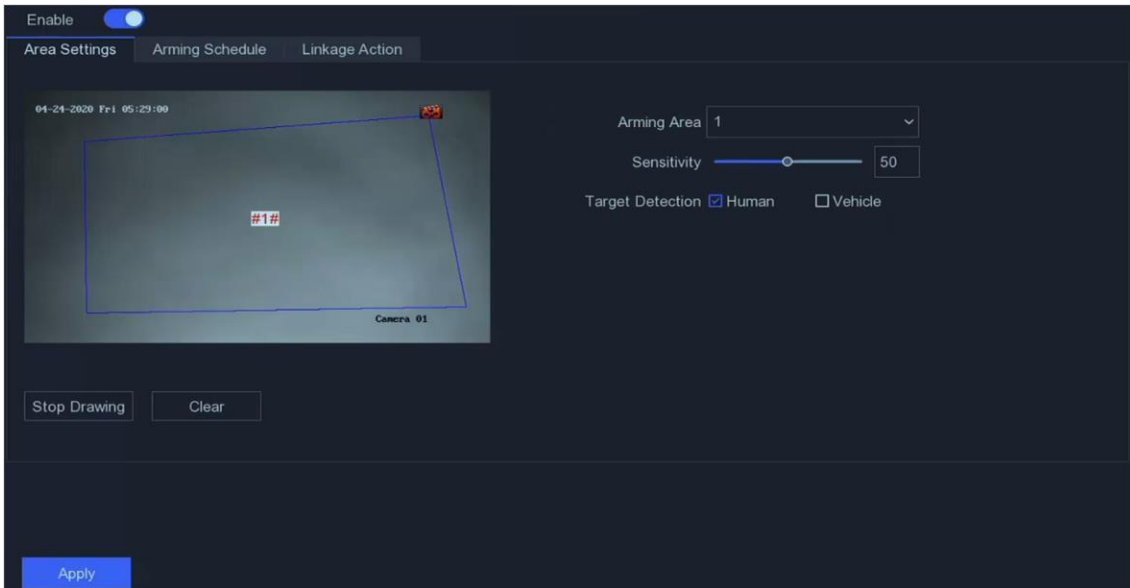


図5-15 領域退出検知

2. カメラを選択します。
3. 有効化をオンにします。
4. 検知ルールと検知エリアを設定します。
 - 1) 警戒エリアを設定します。最大4つの警戒エリアを選択できます。
 - 2) 感度を設定します。値が高いほど検知警報が容易に作動します。範囲は[1-100]です。
 - 3) オプション: ターゲット検出を「人間」または「車両」に設定し、人体や車両によって引き起こされないアラームを排除します。
 - 4) 「領域を描画」をクリックして四角形の検知領域を描画します。
5. 武装スケジュールを設定します。詳細は「[武装スケジュールの設定](#)」を参照してください。
6. 連動アクションを設定します。詳細は「[連動アクションの設定](#)」を参照してください。
7. 適用をクリックします。

武装スケジュール設定

手順

1. 「武装スケジュール」を選択します。
2. 週のうち1日を選び、時間帯を設定します。1日につき最大8つの時間帯を設定できます。



注記

時間帯は重複または重ならないように設定してください。

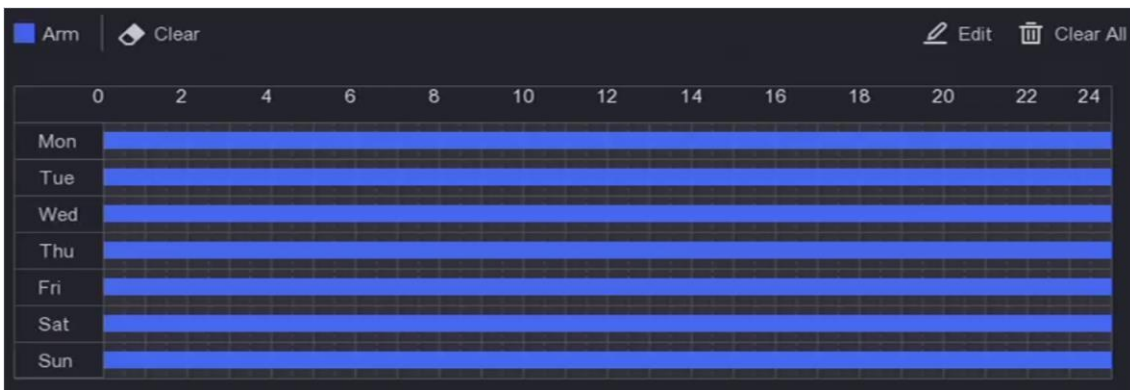


図5-16 警戒スケジュール設定

3. 適用をクリックします。

アラーム連動アクションの設定

アラームまたは例外が発生すると、アラーム連動アクションが作動します。

手順

1. 連動動作をクリックします。
2. 通常連動動作、警報出力連動動作、トリガチャンネルなどを設定します。

アラームポップアップウィンドウ

ローカルモニターは、アラームがトリガーされた際にアラーム発生チャンネルの画像を表示します。トリガーチャンネルでアラーム発生チャンネルを選択する必要があります。

ブザー警報

アラームが作動するとブザー音が鳴ります。

監視センターへの通知

アラームがトリガーされると、デバイスは例外またはアラーム信号をリモートクライアントソフトウェアに送信します。

メール送信

アラームが作動すると、アラーム情報を記載した電子メールを送信します。

PTZ連動

スマートイベント発生時にPTZ動作（プリセット呼び出し/パトロール/パターンなど）をトリガーします。

音声と光のアラーム連動

特定のネットワークカメラでは、警報連動アクションを音声警報または光警報として設定できます。



- お使いのカメラが音声および光警報連動に対応していることを確認してください。
 - 音声出力と音量が適切に設定されていることを確認してください。
 - 音声およびライトのパラメータを設定する必要がある場合は、Webブラウザからネットワークカメラにログインして設定してください。
-

3. **適用**をクリックします。

5.4 録画管理

5.4.1 ストレージデバイス

HDDの初期化

新しく取り付けたハードディスクドライブ（HDD）は、動画や情報を保存する前に初期化する必要があります。

開始前に

ビデオレコーダーに少なくとも1台のHDDを取り付けてください。詳細な手順については、クイックスタートガイドを参照してください。

手順

1. **設定** → **録画** → **ストレージ** に移動します。
2. HDD を選択します。
3. **初期化** をクリックします。

データベース修復

データベースにエラーが発生したHDDを修復します。専門の技術サポートの支援のもとで操作してください。

ネットワークディスクの追加

割り当てられたNASまたはIP SANディスクをビデオレコーダーに追加し、ネットワークHDDとして使用できます。

手順

1. **設定** → **録画** → **ストレージ** に移動します。

2. 「追加」をクリックします。
3. NetHDDを選択します。
4. タイプを NAS または IP SAN に設定します。
5. NetHDDのIPアドレスを入力します。
6. 利用可能なディスクを検索するには、**[Q]** をクリックします。

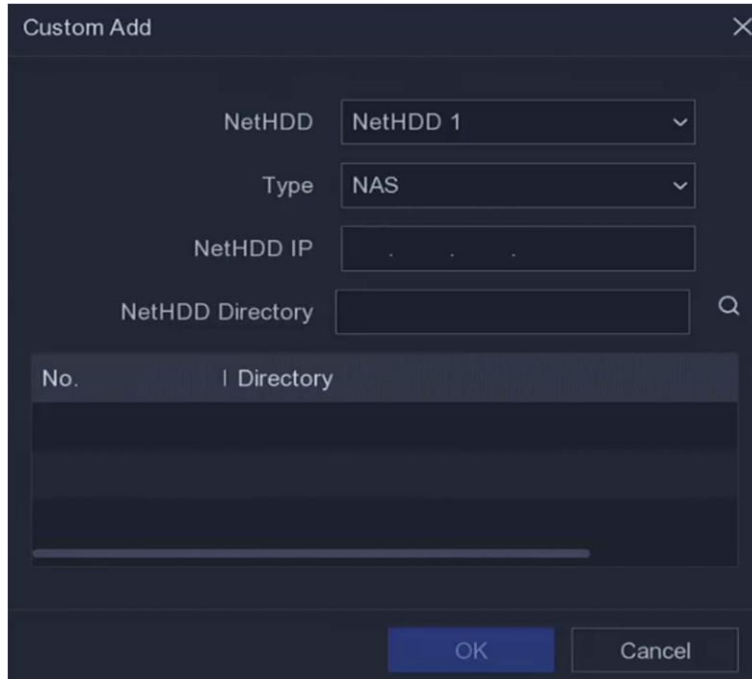


図 5-17 NetHDD の追加

7. リストからNASディスクを選択するか、NetHDDディレクトリに手動でディレクトリを入力します。
8. **[OK]**をクリックします。追加されたNetHDDがストレージデバイス一覧に表示されます。

5.4.2 録画スケジュールの設定

ビデオレコーダーは設定されたスケジュールに従って自動的に録画を開始/停止します。

連続録画の設定

手順

1. 設定 → 録画 → パラメータ に移動します。
2. カメラの連続メインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。詳細は [録画パラメータの設定](#)
3. 設定 → 録画 → スケジュール に移動します。
4. 録画タイプを「連続」に選択します。詳細は「[スケジュールの編集](#)」を参照してください。

イベント録画の設定

モーション検知、ライン越え検知、侵入検知によってトリガーされる録画を設定できます。

侵入検知によってトリガーされる録画を設定できます。

手順

1. 設定 → イベント → スマートイベント に移動します。
2. イベント検出を設定し、イベント発生時に録画をトリガーするチャンネルを選択します。
3. 設定 → 録画 → パラメータ に移動します。
4. カメラの連続メインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。詳細は [録画パラメータの設定](#) を参照してください。
5. 設定 → 録画 → スケジュール に移動します。
6. 録画タイプを「イベント」に設定してください。詳細は「[スケジュール編集](#)」を参照してください。

スケジュール編集

手順

1. 設定 → 録画 → スケジュール に移動します。

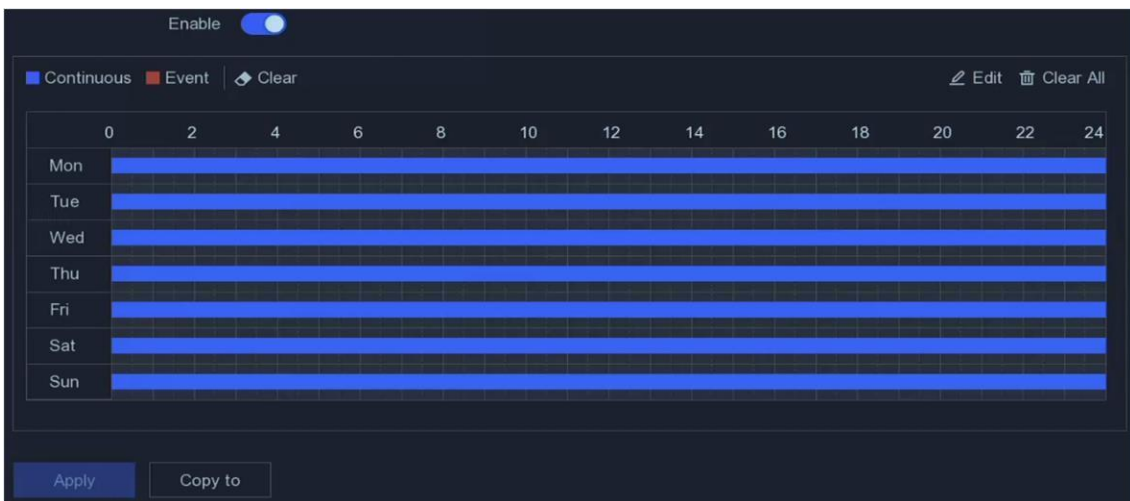


図 5-18 録画スケジュール

連続

連続録画。

イベント

イベントによって録画がトリガーされます。

2. カメラ番号でカメラを選択
3. 有効にするをオンにします。
4. 録画スケジュールを設定します。

スケジュールを編集

1. **編集** をクリックします。
2. 「平日」で設定する曜日を選択します。
3. 終日録画スケジュールを設定するには、**終日** をオンにし、スケジュールタイプを選択します。

4. 他のスケジュールを設定するには、「終日」のチェックを外し、開始/終了時間とスケジュールタイプを設定してください。



1日に最大8つの時間帯を設定できます。また、時間帯同士が重複することはできません。

5. 設定を保存して上位メニューに戻るには、[OK]をクリックしてください。

スケジュールを描く

1. クリックしてスケジュールタイプを「連続」または「イベント」から選択します。
2. テーブル上で、希望する時間帯にマウスをドラッグして色付きのバーを描画します。

5. 適用をクリックします。

5.4.3 録画パラメータの設定

手順

1. 設定 → レコード → パラメータ に移動します。
2. 録音パラメータを設定します。

メインストリーム

メインストリームとは、ハードディスクドライブに記録されるデータに影響を与える主要なストリームを指し、動画の品質と画像サイズを直接決定します。サブストリームと比較して、メインストリームはより高い解像度とフレームレートで高品質な動画を提供します。

サブストリーム

サブストリームはメインストリームと並行して動作する第二のコーデックです。直接録画品質を損なうことなく、インターネット送信帯域幅を削減できます。サブストリームはライブ映像を視聴するスマートフォンアプリケーションで専ら使用されることが多く、インターネット速度に制限のあるユーザーがこの設定から最も恩恵を受けられます。

フレームレート

フレームレートとは、1秒間にキャプチャされるフレーム数を指します。動画ストリームに動きがある場合、フレームレートが高いほど画質が維持されるため有利です。

解像度

画像解像度は、デジタル画像が保持できる詳細度の尺度です。解像度が高いほど、詳細度も高くなります。解像度は、ピクセル列数（幅）×ピクセル行数（高さ）で指定できます。例：1024×768。

ビットレート

ビットレート (Kbit/s または Mbit/s) は、しばしば速度と呼ばれますが、実際には距離/時間単位ではなく、時間単位あたりのビット数を定義するものです。



解像度、フレームレート、ビットレートが高いほど、ビデオの品質は向上しますが、インターネットの帯域幅をより多く必要とし、ハードディスクドライブのストレージ容量もより多く使用します。

3. **適用]** をクリックします。

5.5 Wi-Fi

このデバイスは、ワイヤレスネットワークルーターとして機能することができます。

手順

1. **設定** → **Wi-Fi** に移動します。

図 5-19 Wi-Fi 設定

2. 以下の無線ネットワークパラメータを設定してください。

SSID

SSIDは Service Set Identifierの略称です。SSIDはデバイスが提供するWi-Fi名です。

エリア/国

ルーターを使用する地域を選択してください。

チャンネル

状況に応じて最適なチャンネルを選択してください。

帯域幅

帯域幅モードを選択してください。

セキュリティモード

無線ネットワークのセキュリティプロトコルを選択します。

暗号化タイプ

情報の保護に使用されます。

キー

暗号化キーを入力します。

IP アドレス

Wi-Fi IP アドレスを入力してください。

3. 設定を保存するには「**適用**」をクリックしてください。

第6章 設定（エキスパートモード）

設定に移動し、左下隅の「エキスパートモード」をクリックします。

6.1 システム設定

6.1.1 基本設定

基本設定の構成

言語、システム時刻、出力解像度、マウスポインタ速度、ロック画面パスワードなどを設定できます。

設定 → システム → 一般 → **基本設定** に移動し、必要に応じてパラメータを設定し、「適用」をクリックします。

言語

デフォルトの言語は**英語**です。

VGA/HDMI 解像度

出力解像度を選択してください。これはVGA/HDMIディスプレイの解像度と一致している必要があります。

ロック画面のパスワード

画面がロックされている場合、認証のためにパスワードを入力する必要があります。

マウスポインタ速度

マウスポインタの速度を設定します。4段階の設定が可能です。

ウィザード

デバイスの起動後にウィザードが表示されます。

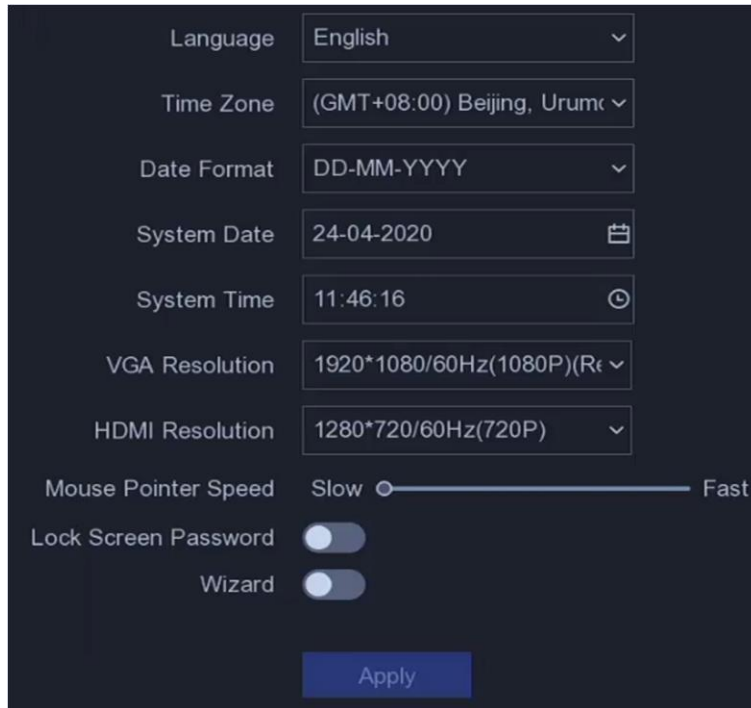


図 6-1 基本設定

DST 設定の構成

夏時間（DST）とは、時計を1時間進める期間を指します。世界の一部の地域では、これにより最も気温が高い時期の夕方に日照時間が長くなる効果があります。

設定 → システム → 一般 → DST設定 に移動し、希望のパラメータを設定して適用をクリックしてください。

その他の設定

デバイス名、ロック画面時間、出力モードなどを設定できます。

設定 → システム → 一般 → 詳細設定 に移動し、必要に応じてパラメータを設定して適用をクリックしてください。

デバイス名

ビデオレコーダーの名前を編集します。

デバイス番号

この番号は、リモートコントロールやネットワークキーボードなどの接続時に必要です。ビデオレコーダーのシリアル番号を編集してください。デバイス番号の範囲は1から255までで、デフォルト値は255です。

ロック画面

ロック画面のタイムアウト時間を設定します。

メニュー出力モード

ローカルメニューを表示するための出力を選択します。

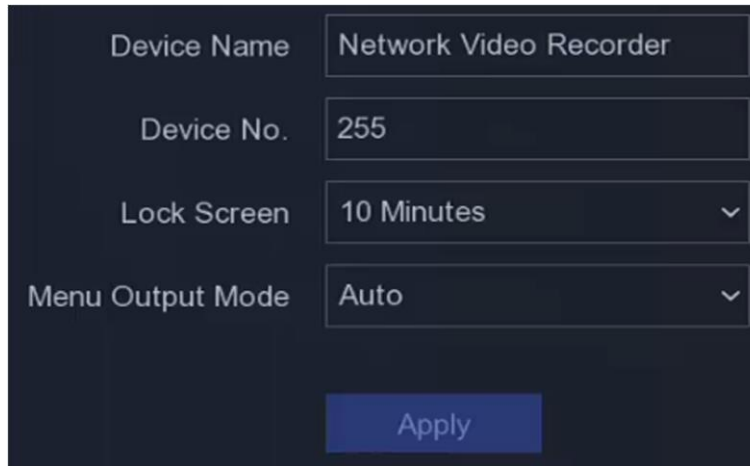


図 6-2 詳細設定

6.1.2 ライブビュー

一般パラメータの設定

出力インターフェースの設定、音声のミュートまたはオン、イベント出力インターフェースなどの設定が可能です。

手順

1. 設定 → システム → ライブビュー → 全般 に移動します。

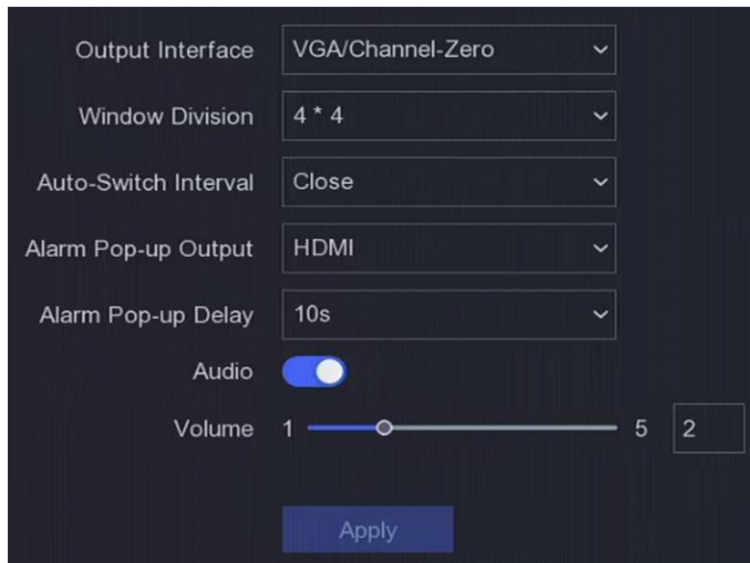


図6-3 ライブビュー一般

2. ライブビューのパラメータを設定します。

ウィンドウ分割

ライブビューのウィンドウ分割を選択します。

自動切り替え間隔

ライブビューで自動切り替えを有効にした場合、次のカメラに切り替える前にカメラに留まる時間。

アラームポップアップ出力

アラーム動画を表示する出力を選択します。

アラームポップアップ遅延

アラームイベント画像を表示する時間を設定します。

オーディオ

選択したビデオ出力の音声出力をオン/オフにします。



音量

選択したビデオ出力インターフェースのライブビュー、再生、双方向オーディオの音量を調整します。

3. **適用**をクリックしてください。

ライブビューレイアウトの設定

手順

1. **設定** → **システム** → **ライブビュー** → **表示** に移動します。
2. **出力インターフェース**を設定します。
3. ウィンドウを選択し、表示したいカメラをリストでダブルクリックします。**+** は、ウィンドウにカメラが表示されないことを意味します。
4. オプション: すべてのカメラのライブビューを開始または停止するには、[] または [] をクリックします。
5. **適用**をクリックします。

Channel-Zero エンコーディングの設定

WebブラウザやCMS(クライアント管理システム)ソフトウェアから、多くのチャンネルをリアルタイムでリモート表示する必要がある場合に、画質に影響を与えずに帯域幅の要件を削減するために、チャンネルゼロエンコーディングを有効にします。

手順

1. **設定** → **システム** → **ライブビュー** → **一般** に移動します。
2. **ビデオ出力インターフェース**を**Channel-Zero**に設定します。
3. **設定** → **システム** → **ライブビュー** → **Channel-Zero** に移動します。

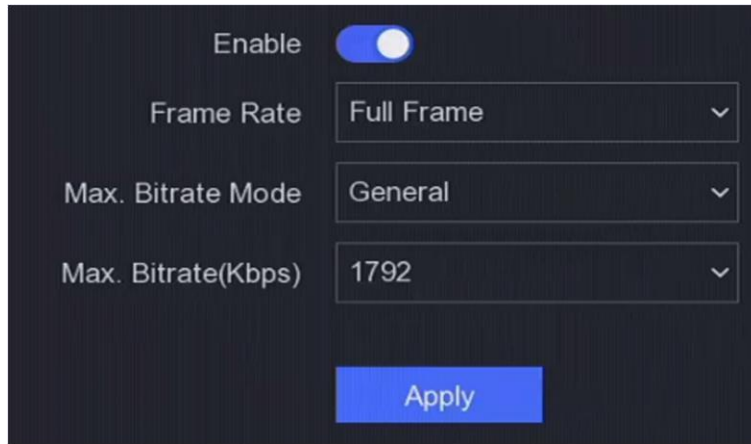


図6-4 Channel-Zero

4. 有効化をオンにします。
5. フレームレート、最大ビットレートモード、最大ビットレートを設定します。フレームレートとビットレートが高いほど、より高い帯域幅要件が必要となります。
6. 適用をクリックします。

6.1.3 ユーザー

詳細については、[ユーザー](#)を参照してください。

6.1.4 表示

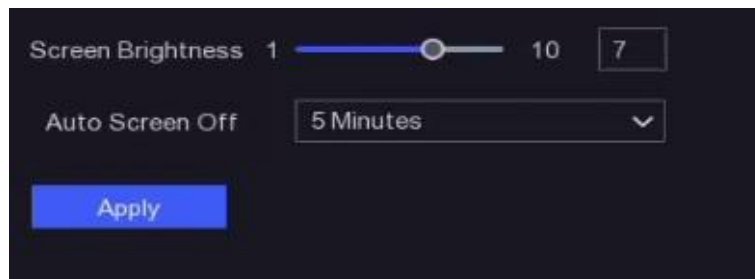
LCD 画面の輝度と画面オフ時間を設定できます。

手順



この機能はLCDディスプレイ搭載のデバイスでのみ利用可能です。

1. 設定 → システム → ディスプレイ に移動します。



2. 画面の明るさと自動画面オフを好みに合わせて設定してください。

画面の明るさ

LCD 画面の輝度。

自動画面オフ

デバイスが指定時間アイドル状態になると、LCD画面が自動的にオフになります。デバイス側面パネルの電源ボタンを押すか、マウスを動かすと画面が点灯します。



電源ボタンを5秒以上押し続けると、デバイスがシャットダウンします。

3. 適用をクリックしてください。

6.2 ネットワーク設定

6.2.1 TCP/IP

ネットワーク経由でビデオレコーダーを操作する前に、TCP/IP を適切に設定する必要があります。

手順

1. 設定 → ネットワーク → 一般 → TCP/IP に移動します。
2. ネットワークパラメータを設定します。

動作モード

- マルチアドレスモード:
 - 2枚のNICカードのパラメータは個別に設定可能です。パラメータ設定では、NICタイプフィールドでLAN1またはLAN2を選択できます。いずれか1枚のNICカードをデフォルトルートとして選択できます。これにより、システムはエクストラネットに接続され、データはデフォルトルートを経由して転送されます。
- ネットワーク障害耐性モード:
 - 2枚のNICカードは同一のIPアドレスを使用し、メインNICをLAN1またはLAN2に選択できます。これにより、一方のNICカードに障害が発生した場合、ビデオレコーダーは自動的に待機状態のもう一方のNICカードを有効化し、システム全体の正常な稼働を確保します。
- 負荷分散モード:
 - 同一のIPアドレスを使用し、2枚のNICカードで総帯域幅の負荷を分散させることで、システムは2つのギガビットネットワーク容量を提供可能とする



動作モードは特定のモデルでのみ利用可能です。

NICタイプ

ご希望のNICタイプを選択してください。

DHCP

DHCP サーバーが利用可能な場合は、**[DHCP を有効にする]** をチェックして、そのサーバーからIPアドレスやその他のネットワーク設定を自動的に取得することができます。

MTU

最大伝送単位（MTU）とは、単一のネットワークトランザクションで通信可能な最大サイズのネットワーク層プロトコルデータ単位です。

DNS を自動的に取得

DHCPがチェックされている場合、優先DNSサーバーと代替DNSサーバーを取得するには「DNSを自動的に取得する」にチェックを入れてください。

3. 適用をクリックします。

6.2.2 DDNS

ダイナミックドメインネームサーバー（DDNS）は、動的なユーザーの IP アドレスを固定のドメインネームサーバーにマッピングします。

開始前に

DynDNS、PeanutHull、NO-IP サービスを ISP に登録してください。

手順

1. 設定 → ネットワーク → 一般 → DDNS に移動します。

The screenshot shows a configuration panel for DDNS. At the top, there is an 'Enable' toggle switch which is currently turned on. Below it is a 'DDNS Type' dropdown menu with 'DynDNS' selected. There are four empty text input fields for 'Server Address', 'Device Domain Name', 'User Name', and 'Password'. At the bottom of the panel, the 'Status' is displayed as 'DDNS is disabled.' and there is a blue 'Apply' button.

図 6-5 DDNS

2. 有効化をオンにします。

3. DDNS タイプを選択します。

4. サービスアドレス、ドメイン名などのパラメータを入力します。

5. 適用をクリックし

てください。次にす

べきこと

ステータスでDDNSの状態を確認できます。

6.2.3 NAT

クロスセグメントネットワーク経由のリモートアクセスを実現するためのポートマッピングには、UPnP™ と手動マッピングの2つの方法があります。

開始前に

UPnP™ が必要な場合は、お使いのルーターの UPnP™ 機能を有効にしてください。デバイスのネットワーク動作モードがマルチアドレスの場合、デフォルトのデバイスルートは、ルーターの LAN IP アドレスと同じネットワークセグメント上にある必要があります。

手順

1. 設定 → ネットワーク → 一般 → NAT に移動します。

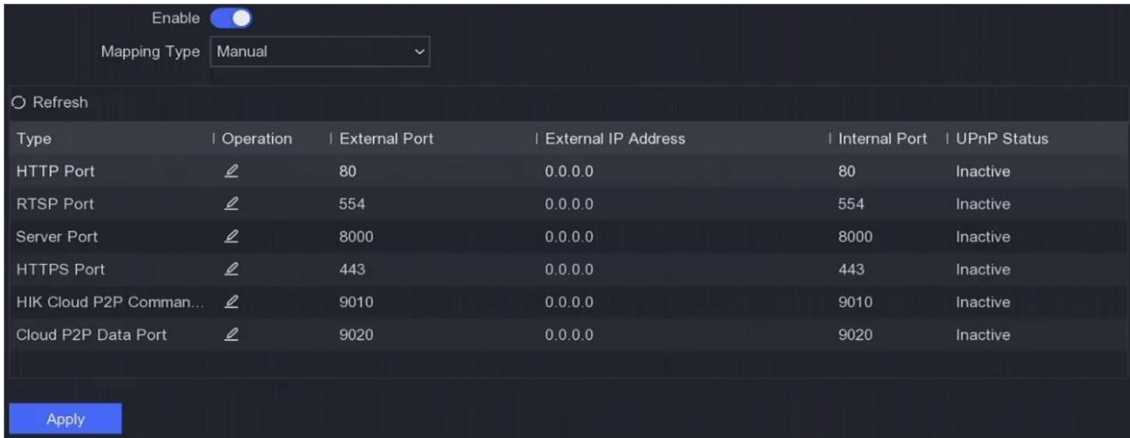


図 6-6 NAT

2. 有効化をオンにします。
3. マッピングタイプを「手動」または「自動」に選択します。

自動

ポートマッピング項目は読み取り専用であり、外部ポートはルーターによって自動的に設定されます。「更新」をクリックすると、ポートマッピングの最新状態を取得できます。

手動

外部ポートの種類を選択します。「」をクリックして外部ポートを編集します。デフォルトの外部ポート番号を使用するか、実際の要件に応じて変更できます。外部ポートはルーターでのポートマッピングに使用するポート番号を示します。RTSPポート番号の値は554または1024～65535の範囲である必要があります。その他のポートの値は1～65535の範囲で、互いに異なる値である必要があります。同一ルーターで複数のデバイスがUPnP™設定されている場合、各デバイスのポート番号は一意である必要があります。

4. ルーターの仮想サーバーを設定します。内部送信元ポート、外部送信元ポートなどを含みます。仮想サーバーのパラメータは、お使いのデバイスのポートに対応している必要があります。

6.2.4 NTP

お使いのデバイスは、システム時刻を正確に保つためにネットワーク時刻プロトコル（NTP）サーバーに接続できます。

手順

1. **設定** → **ネットワーク** → **一般** → **NTP** に移動します。
2. **有効化** をオンにします。
3. パラメータを入力します。

間隔

NTPサーバーとの2回の時刻同期の間隔。

NTP サーバー

NTPサーバーのIPアドレス。

4. **適用** をクリックしてください。

6.2.5 ポート（詳細設定）

必要な機能に応じて、異なるポートタイプを設定します。**設定** → **ネットワーク** → **一般** → **詳細設定** に移動します。

アラームホスト IP/ポート

デバイスは、アラームが発生した際にアラームイベントまたは例外メッセージをアラームホストに送信します。リモートアラームホストには、クライアント管理システム（CMS）ソフトウェアがインストールされている必要があります。

アラームホスト IP は、CMS ソフトウェア（例：iVMS-4200）がインストールされているリモート PC の IP アドレスを指し、アラームホストポート（デフォルトは 7200）は、ソフトウェアで設定されているアラーム監視ポートと同じである必要があります。

サーバーポート

リモートクライアントソフトウェアアクセス用。2000～65535の範囲。デフォルト値は8000。

HTTP ポート

リモートWebブラウザアクセス用。デフォルト値は80です。

マルチキャストIP

マルチキャストを設定することで、ネットワーク経由で許可される最大台数を超えるカメラのライブビューを有効にできます。マルチキャストIPアドレスは、224.0.0.0 から 239.255.255.255 までのクラス D IP をカバーしており、239.252.0.0 から 239.255.255.255 までの IP アドレスを使用することをお勧めします。

CMS ソフトウェアにデバイスを追加する場合、マルチキャストアドレスはデバイスのアドレスと同じである必要があります。

RTSP ポート

RTSP（Real Time Streaming Protocol）は、

エンターテインメントおよび通信システム向けに設計されたネットワーク制御プロトコルであり、ストリーミングメディアサーバーを制御します。デフォルトのポート番号は554です。

出力帯域幅制限

チェックボックスをオンにすると、出力帯域幅制限を有効にできます。

出力帯域幅

出力帯域幅制限を有効にした後、出力帯域幅を入力してください。



注意

- 出力帯域幅制限は、リモートライブビューおよび再生に使用されます。
- デフォルトの出力帯域幅は最大制限値です。

Alarm Host IP	<input type="text"/>
Alarm Host Port	0
Server Port	8000
HTTP Port	80
Multicast IP	<input type="text"/>
RTSP Port	554
<input type="button" value="Apply"/>	

図 6-7 ポート設定

6.2.6 ISUP

SDK は、インテリジェントセキュリティアップリンクプロトコル (ISUP) に基づいています。サードパーティのプラットフォームが、NVR、スピードドーム、DVR、ネットワークカメラ、モバイル NVR、モバイルデバイス、デコードデバイスなどのデバイスにアクセスするための API、ライブラリファイル、およびコマンドを提供します。このプロトコルにより、サードパーティのプラットフォームは、ライブビュー、再生、双方向オーディオ、PTZ 制御などの機能を実現できます。

手順

1. 設定 → ネットワーク → プラットフォームアクセス に移動します。
2. タイプを ISUP に設定してください。

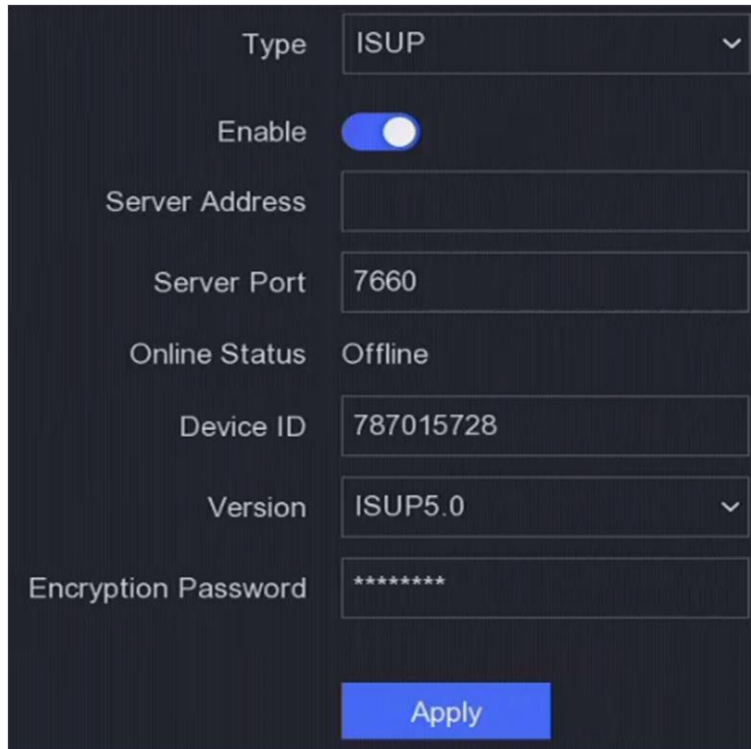


図6-8 ISUP

3. Enableをオンにする。



ISUPを有効にすると、他のプラットフォームへのアクセスは無効になります。

4. 関連するパラメータを設定します。

サーバーアドレス

プラットフォームサーバーの IP アドレス。

サーバーポート

プラットフォームサーバーのポート。1024 から 65535 までの範囲。実際のポートはプラットフォームによって提供されます。

デバイスID

デバイスIDはプラットフォームによって提供される。

バージョン

ISUPプロトコルバージョン。V5.0のみ利用可能です。

暗号化パスワード

ISUP V5.0バージョンを使用するには暗号化パスワードが必要です。これにより、デバイスとプラットフォーム間の通信がより安全になります。デバイスをISUPプラットフォームに登録後、確認のためパスワードを入力してください。

5. 設定を保存しデバイスを再起動するには「適用」をクリックしてください。

次の手順

デバイス再起動後、オンライン状態（オンライン/オフライン）を確認できます。

6.2.7 Hik-Connect

設定 → ネットワーク → プラットフォームアクセス に移動します。詳細は [Hik-Connect](#) を参照してください。

6.2.8 メール

設定 → ネットワーク → メール に移動します。詳細は [メール](#) を参照してください。

6.3 カメラ管理

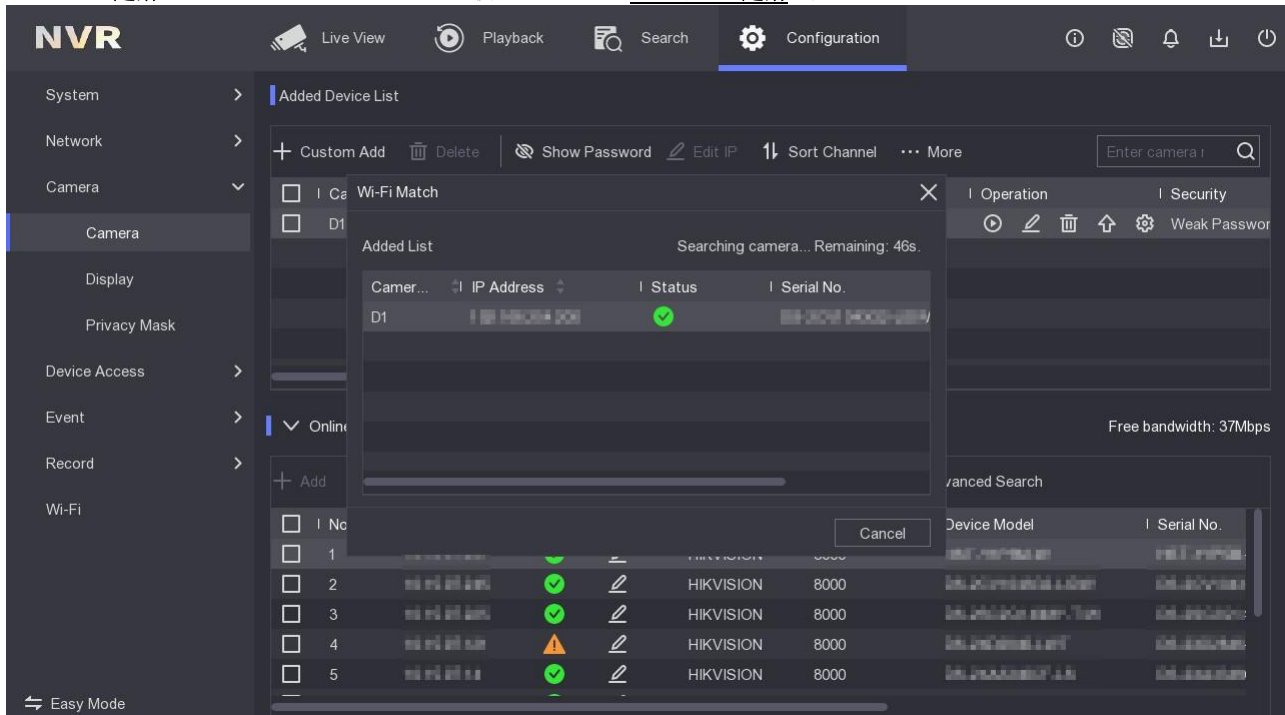
6.3.1 ネットワークカメラ

Wi-Fi経由でネットワークカメラを追加 Wi-Fiカメラ

を追加

Wi-Fi マッチ機能を使用して、未アクティベート状態の Wi-Fi カメラを検索し、デバイスに自動的に追加できます。ライブビューモードで右クリックメニューから「**Wi-Fi マッチ**」を選択すると、デバイスが Wi-Fi カメラを検索 追加します。この処理には約2分かかります。Wi-Fi カメラの

はIPカメラ起動パスワードをパスワードとして使用します。(デバイスの起動を参照)



注意

- Wi-Fiカメラとデバイス間の距離は50メートル以内に保つことを推奨します。
- この機能に対応しているのは特定のWi-Fiカメラモデルおよびバージョンに限られます。
- Wi-Fiカメラの電源がオンになっていること、アクティベートされていないこと、ネットワークケーブルで他のデバイスに接続されていないことを確認してください。
- キット内では、Wi-Fiカメラは自動的にNVRに接続されます。

カメラトポロジーを表示

Wi-Fi 信号強度に応じて、Wi-Fi カメラは自動的に論理ネットワークトポロジーを形成します。接続トポロジーとステータスは、[設定] → [カメラ] → [カメラ]

トポロジで確認できます。



この機能は特定のモデルでのみ利用可能です。

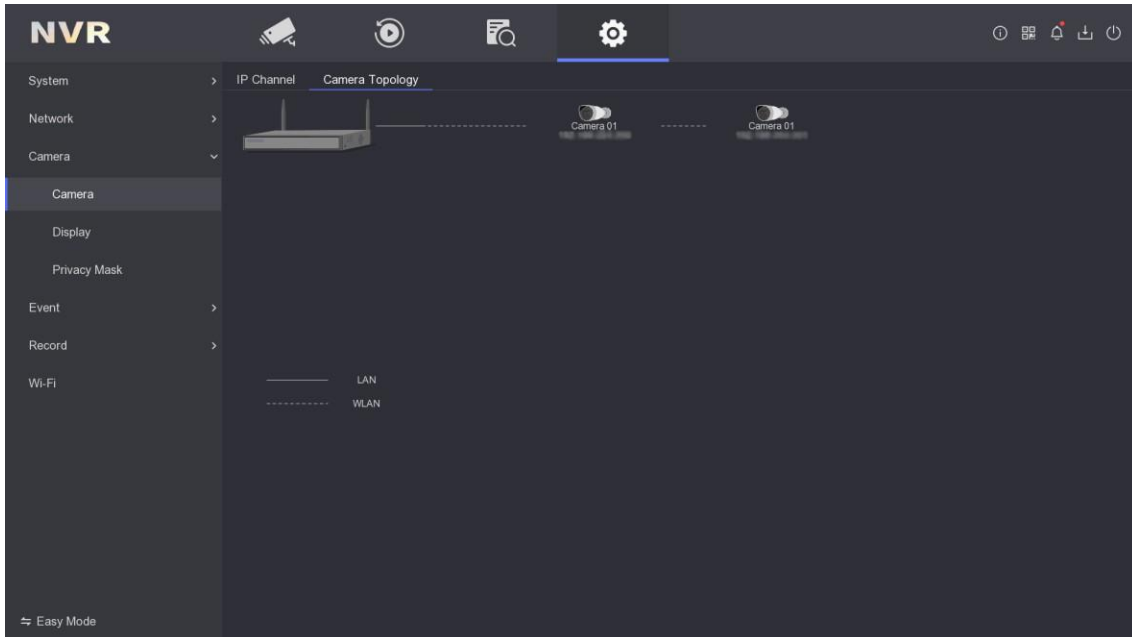


図 6-10 カメラトポロジ

自動的に検索されたオンラインネットワークカメラを追加

ネットワークカメラをビデオレコーダーに追加します。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。
- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダーと同じであることを確認してください。

手順

1. **設定** → **カメラ** → **カメラ** に移動します。
2. **オンラインデバイスリスト** をクリックします。同じネットワークセグメント上のオンラインカメラがリストに表示されます。

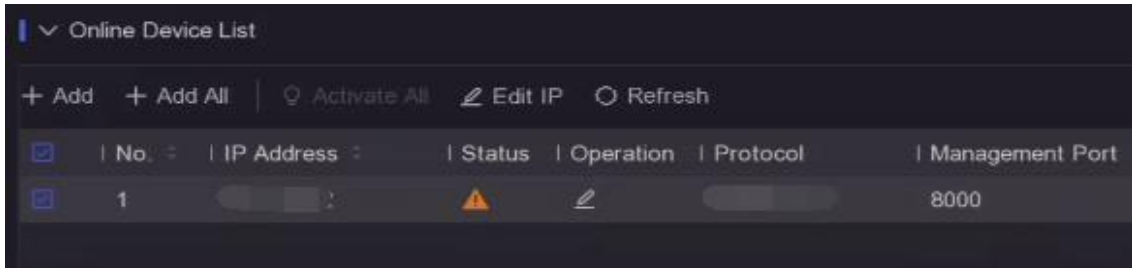


図 6-11 オンラインデバイス

3. オプション: カメラのIPアドレスを一括編集するには「**IP編集**」をクリックしてください。システムは選択したカメラに順番にIPアドレスを割り当てます。



注記

選択したカメラが有効化されていることを確認してください。

4. ネットワークカメラを選択し、「**追加**」をクリックして追加します。

ネットワークカメラを手動で追加

ネットワークカメラをビデオレコーダーに追加します。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。
- ネットワークカメラが有効になっていることを確認してください。

手順

1. **設定** → **カメラ** → **カメラ** に移動します。
2. **+** をクリックします。

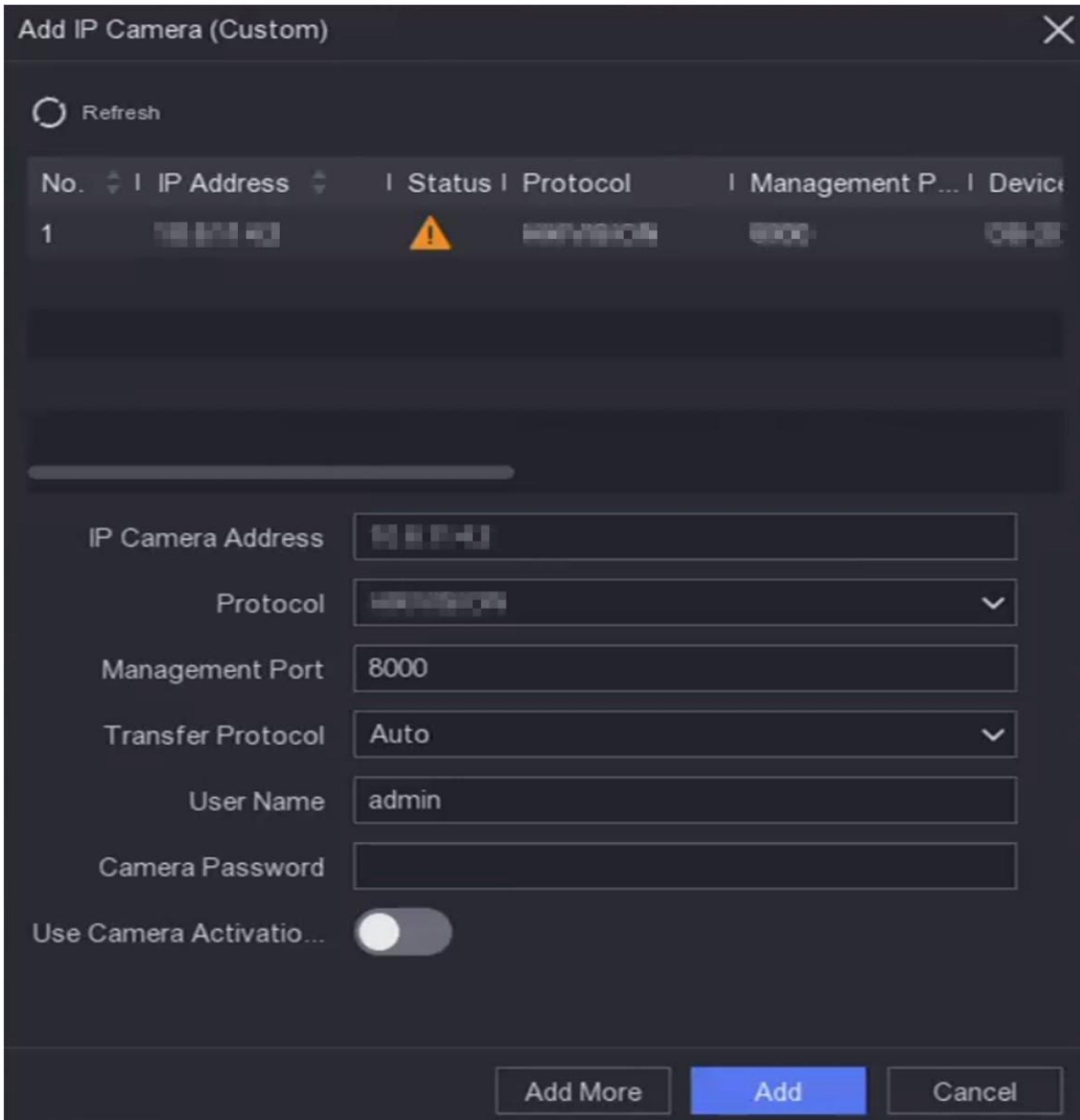


図 6-12 IP カメラの追加

3. ネットワークカメラのパラメータを入力します。

カメラ有効化パスワードを使用する


有効にすると、ビデオレコーダーは設定されたチャンネルのデフォルトパスワードでカメラを追加します。

4. [追加] をクリックします。

ネットワークカメラの編集

ネットワークカメラの IP アドレス、プロトコル、その他のパラメータを編集できます。

手順

1. 設定 → カメラ → カメラ に移動します。
2. 追加したネットワークカメラの  をクリックします。

チャンネルポート

接続されたデバイスが複数のチャンネルを持つエンコーディングデバイスである場合、ドロップダウンリストからチャンネルポート番号を選択して接続するチャンネルを選ぶことができます。

3. オプション: 「IPの編集」をクリックすると、カメラのIPアドレスを一括編集できます。システムは、選択したカメラに順番にIPアドレスを割り当てます。
4. [OK]をクリックします。


ネットワークカメラのアップグレード

ネットワークカメラは、デバイスを介してリモートでアップグレードできます。

開始する前に

- USBフラッシュドライブをデバイスに挿入し、ネットワークカメラのアップグレードファームウェアが含まれていることを確認してください。
- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。

手順

1. 設定 → カメラ → カメラ に移動します。
2.  をクリックします。
3. 確認のため「はい」をクリックします。
4. ストレージデバイスからカメラのアップグレード用ファームウェアを選択します。
5. アップグレードをクリックしてアップグレードを開始します。アップグレード完了後、カメラは自動的に再起動します。


高度なカメラパラメータの設定

カメラのIPアドレスやパスワードなどの詳細なカメラ設定を構成できます。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。

手順

1. 設定 → カメラ → カメラ に移動します。
2.  をクリックします。
3. IPアドレス、カメラパスワードなどのカメラパラメータを設定します。
4. 適用をクリックします。

詳細設定

手順

1. 設定 → カメラ → カメラ に移動します。
2. 詳細をクリックします。
3. パラメータをご希望に応じて設定してください。

H.265自動切り替え設定

このオプションを有効にすると、デバイスはネットワークカメラ（H.265 ビデオ形式をサポート）に対して、初回アクセス時に自動的に H.265 ストリームに切り替わります。

アップグレード

追加したネットワークカメラをアップグレードします。

エクスポート/インポート

追加したネットワークカメラの情報は、IP アドレス、ポート、管理者パスワードなどを含む Excel ファイルとして生成され、バックアップのためにローカルデバイスにエクスポートできます。エクスポートしたファイルは、コンテンツの追加や削除など、お使いのコンピュータで編集できます。また、Excel ファイルを他のデバイスにインポートすることで、その設定をコピーすることができます。

プロトコル

標準プロトコルで設定されていないネットワークカメラを接続するには、カスタムプロトコルを設定できます。システムは16種類のカスタムプロトコルを提供します。

カメラ起動パスワード設定

ネットワークカメラのアクティベーションおよび追加時のデフォルトパスワードを変更します。既に接続済みのネットワークカメラについては、次のポップアップウィンドウでパスワードをこの値に変更するかどうかを選択できます。

一括設定

デバイスは、選択したネットワークカメラの時刻を自動的に同期できます。

ワイヤレスカメラアクセス設定

ネットワーク帯域幅やデバイスリソースが不足している場合、ワイヤレスカメラのサブストリームを無効にして、ワイヤレスカメラへのアクセス安定性を向上させることができます。



この機能はデフォルトでは無効になっています。ワイヤレスカメラのサブストリームを無効にする場合、デバイスを再起動する必要があります。

チャンネルの並べ替え

チャンネルレイアウトウィンドウはチャンネル番号順に並べ替えられます。ウィンドウをドラッグすることで、カメラに紐付けられたチャンネル番号を変更できます。



チャンネルの並べ替え後、デバイスはネットワークカメラに再接続します。

6.3.2 表示設定

OSD（オンスクリーンディスプレイ）、画像設定、露出設定、デイ/ナイト切り替え

設定などを行います。

手順

1. 設定 → カメラ → ディスプレイ に移動します。
2. カメラを設定します。
3. パラメータを任意に設定します。

OSD設定

カメラの OSD（オンスクリーンディスプレイ）設定（日付/時刻、カメラ名など）を構成します。

画像設定

ライブビューと録画効果の明るさ、コントラスト、彩度などの画像パラメータをカスタマイズします。

露出

カメラの露光時間を設定します（1/10000～1秒）。露光値が大きいほど画像は明るくなります。

デイ/ナイト切替

周囲の照明条件に応じて、カメラを昼間、夜間、または自動切り替えモードに設定できます。

逆光

カメラのワイドダイナミックレンジ（WDR）を設定します（0～100）。周囲の照明と被写体の明るさに大きな差がある場合、WDR値を設定してください。

画像強調

画像のコントラストを最適化して強調します。

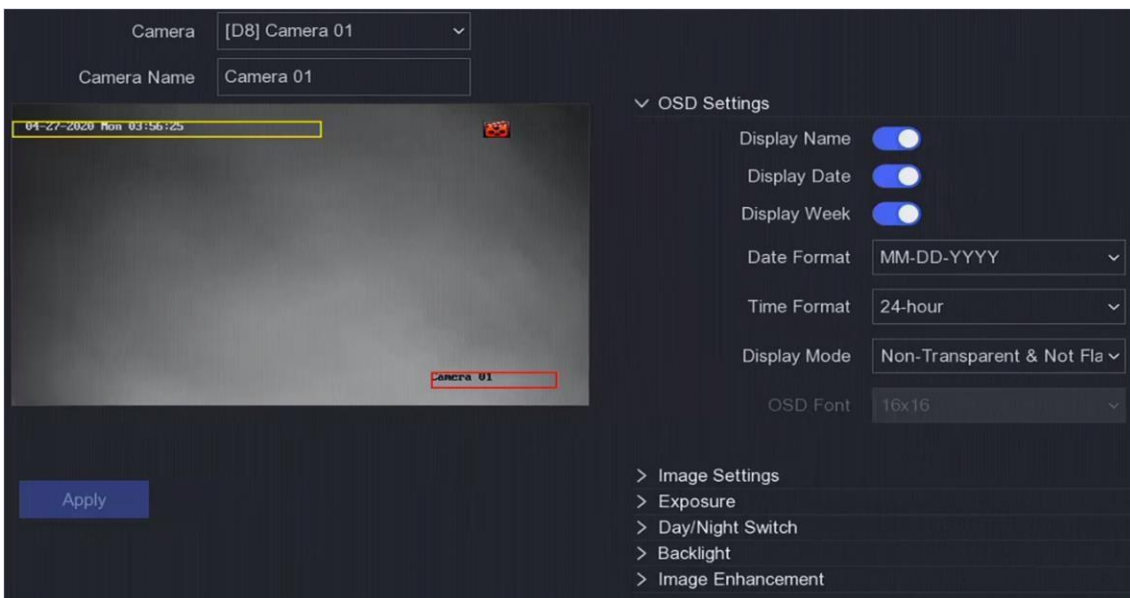


図 6-13 OSD

4. プレビューウィンドウ上のテキストフレームをドラッグしてOSDの位置を調整します。
5. 適用をクリックします。

6.3.3 プライバシーマスク

表示または録画できないプライバシーマスク領域を設定することができます。

手順

1. 設定 → カメラ → プライバシーマスク に移動します。
2. カメラを選択します。
3. 有効化をオンにします。

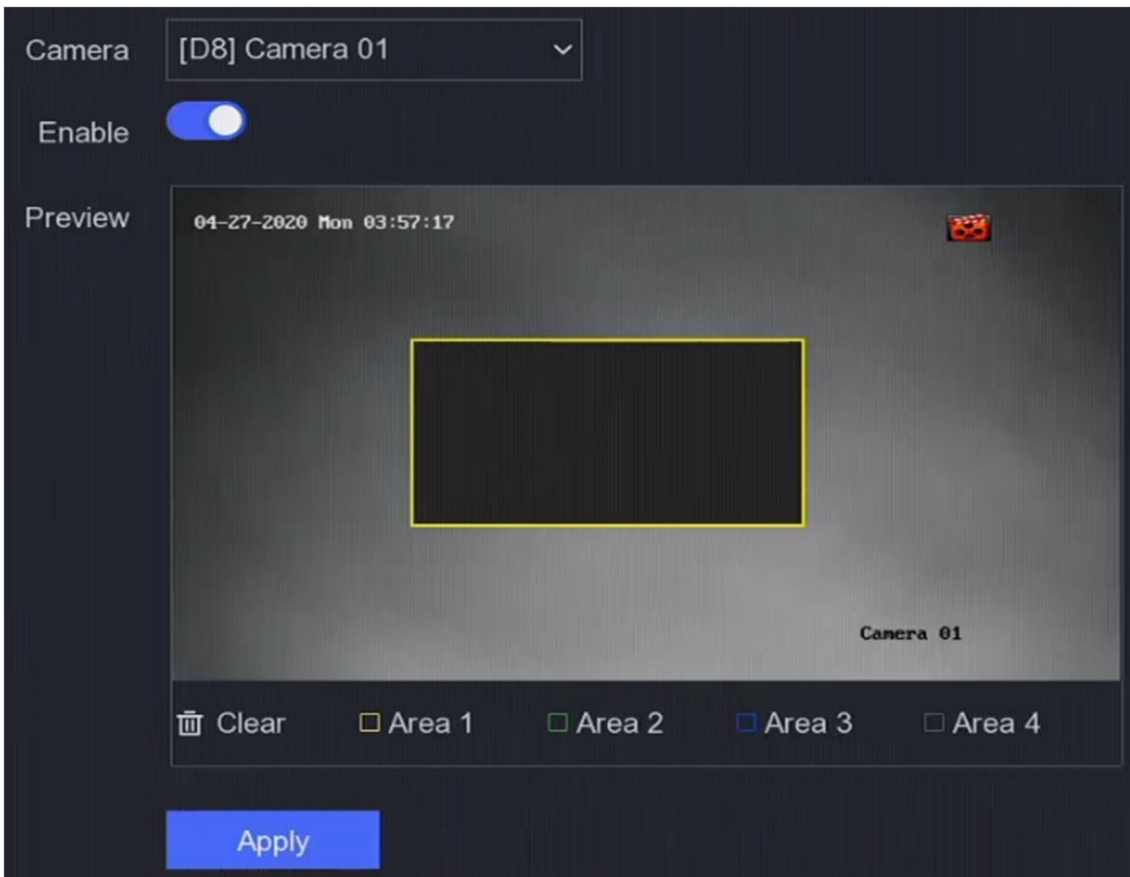


図 6-14 プライバシーマスク

4. ウィンドウ上で領域をドラッグして描画します。領域の枠は異なる色でマークされます。



最大4つのプライバシーマスク領域を設定できます。各領域のサイズは調整可能です。

5. 適用をクリックしてください。

6.4 イベント設定

6.4.1 通常イベント

モーション検知

モーション検知により、ビデオレコーダーは監視エリア内の移動物体を検知し、警報を発することができます。詳細については、[モーション検知](#)を参照してください。

映像改ざん

レンズが覆われた場合に警報を発し、警報対応措置を講じます。

手順

1. 設定 → イベント → 通常イベント → 映像改ざん に移動します。

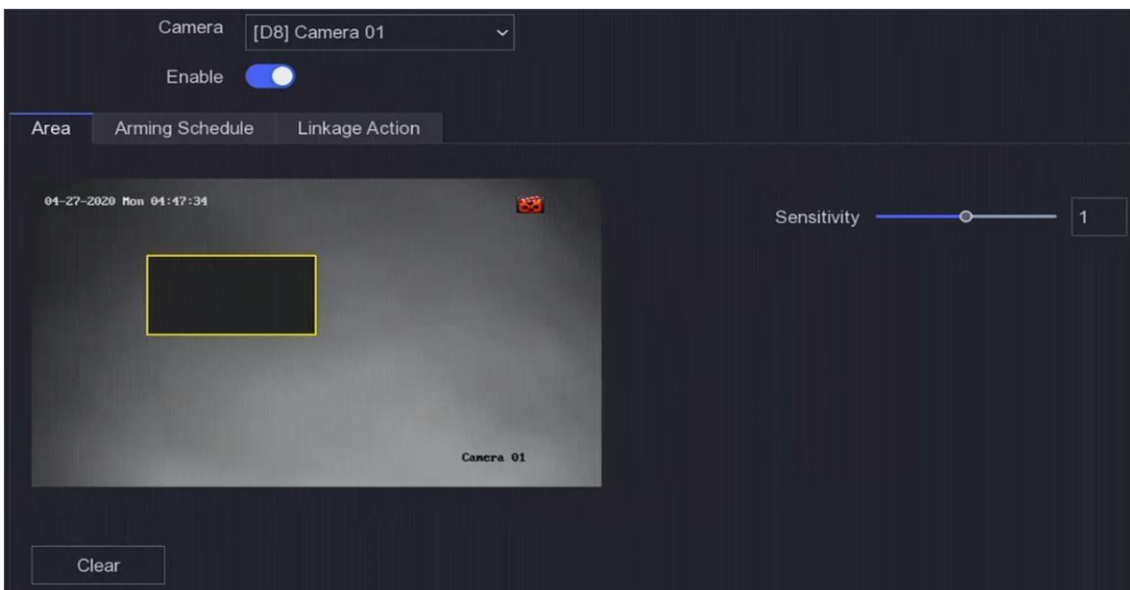


図6-15 映像改ざん

2. カメラを設定します。
3. 有効化をオンにします。
4. 感度を任意に調整します。値が高いほど、映像改ざんがより簡単にトリガーされます。
5. 武装スケジュールを設定します。詳細は [\[武装スケジュールの設定\]](#) を参照してください。
6. 連動アクションを設定します。詳細は [\[警報連動アクションの設定\]](#) を参照してください。
7. 適用をクリックします。

映像喪失

カメラの映像消失を検知し、警報対応アクションを実行します。

手順

1. 設定 → イベント → 通常イベント → 映像消失 へ移動してください。
2. カメラを設定します。
3. 有効化をオンにする。
4. 武装スケジュールを設定します。詳細は「[武装スケジュールの設定](#)」を参照してください。
5. 連動アクションを設定します。詳細は「[警報連動アクションの設定](#)」を参照してください。
6. 適用をクリックします。

外部センサー警報の連動動作を設定します。詳細は「[外部センサー警報の連動動作の設定](#)」を参照してください。

外部センサーアラームの連動動作を設定します。

手順

1. 設定 → イベント → 通常イベント → アラーム入力 に移動します。





Alarm Input No.	Alarm Name	Alarm Type	Enable	Operation
Local<-1		N.O	No	
Local<-2		N.O	No	
Local<-3		N.O	No	
Local<-4		N.O	No	

図 6-16 アラーム入力



ローカル警報入力: ローカル警報入力は、ビデオレコーダーの端子台に接続された外部デバイスによってトリガーされません。

2. 目的のアラーム入力の「」をクリックします。

Alarm Input No. Local<-1 Type N.O

Alarm Name

Settings Nonuse Input One-Key Disarming

図 6-17 アラーム入力の編集

3. アラーム名をカスタマイズします。
4. アラームタイプを **N.O** (通常開) または **N.C** (通常閉) に設定します。
5. 機能を有効にするには、設定を「**入力**」に設定します。



設定を「非使用」に設定すると、警報入力は無効になります。設定を「ワンキー解除」に設定すると、警報入力の選択された連動方法が無効になります。

6. 武装スケジュールを設定します。詳細は「[武装スケジュールの設定](#)」を参照してください。
7. 連動動作を設定します。詳細は「[警報連動動作の設定](#)」を参照してください。
8. 適用をクリックします。

警報出力

警報が作動したときに警報出力をトリガーします。

手順

1. 設定 → イベント → 通常イベント → アラーム出力 に移動します。

Alarm Output No.	Alarm Name	Dwell Time	Operation
Local->1		5s	

図 6-18 アラーム出力

2. 目的のアラーム出力の「」をクリックします。
3. アラーム名をカスタマイズします。
4. ドウェル時間を選択します。



図 6-19 アラーム出力の編集

5. 設定を入力として設定し、機能を有効にします。
6. 武装スケジュールを設定します。詳細は「[武装スケジュールの設定](#)」を参照してください。
7. 適用をクリックします。

例外

例外イベントを設定すると、ライブビューウィンドウのイベントヒントを取得し、警報出力や連動動作をトリガーすることができます。

手順

1. 設定 → イベント → 通常イベント → 例外 に移動します。
2. イベントヒントを設定します。設定したイベントが発生すると、アラームセンターでヒントを受け取ります。
 - 1) イベントヒントを有効にする。
 - 2) 通知対象イベントを選択します。以下の選択肢から選択してください。
 - クリック  イベントヒント設定をクリックしてイベントを選択してください。
 - ローカル  ニューの右上隅にある ローカルメニューの右上隅にあるをクリックしてアラームセンターに入り、イベントを選択します。
3. 例外タイプを選択し、その連動アクションを設定します。

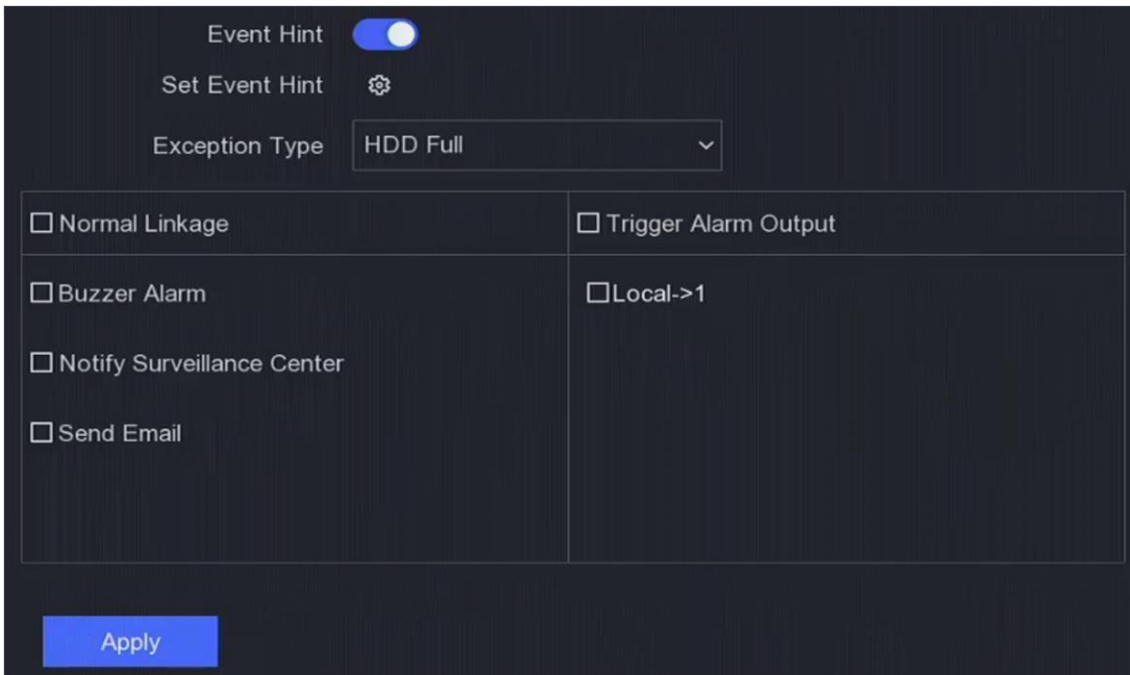


図 6-20 例外

4. 武装スケジュールを設定します。詳細は [「武装スケジュールの設定」](#) を参照してください。
5. 適用をクリックします。

6.4.2 スマートイベント

ライン横断検知

ライン横断検知は、設定された仮想ラインを横断する人物、車両、物体を検知します。

検出方向は双方向、左から右、または右から左に設定できます。

手順

1. 設定 → イベント → スマートイベント → ラインクロッシング に移動します。
2. カメラを設定します。
3. 有効化をオンにします。
4. オプション：VCA検出でキャプチャした画像を保存するには「VCA画像保存」にチェックを入れます。
5. 検知ルールと検知エリアを設定します。

1) 武装エリアを設定します。最大4つの武装エリアを選択できます。

2) 方向を A<->B、A->B、または A<-B として設定し

ます。A<->B

B側の矢印のみが表示されます。設定された線を両方向から横切る物体を検知し、警報を発動させることができます。

A->B

設定ラインをA側からB側へ横切る物体のみ検出可能。

B->A

設定されたラインをB側からA側へ横切る物体のみ検出可能。

3) オプション：ターゲット検出を「人間」または「車両」に設定し、人体や車両によって引き起こされないアラームを排除します。



注記

この機能は特定のモデルでのみご利用いただけます。

- 4) 「領域を描画」をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定してプレビューウィンドウに四角形を描画します。
6. 武装スケジュールを設定します。詳細は「[武装スケジュールの設定](#)」を参照してください。
7. 連動動作を設定します。詳細は「[警報連動動作の設定](#)」を参照してください。
8. 適用をクリックします。

侵入検知

侵入検知機能は、事前に定義された仮想領域に侵入し、うろつく人物、車両、または物体を検知します。

手順

1. 設定 → イベント → スマートイベント → 侵入 へ移動します。
2. カメラを設定します。
3. 有効化をオンにします。
4. オプション：VCA検出でキャプチャした画像を保存するには「VCA画像保存」にチェックを入れます。
5. 検知ルールと検知エリアを設定します。

1) 武装エリアを設定します。最大4つの武装エリアを選択できます。

2) 時間しきい値と感度を調整します。

感度

警報をトリガーできるオブジェクトのサイズ。値が高いほど、検知警報がより容易にトリガーされます。範囲は[1-100]です。

時間閾値

範囲 [1秒-10秒]。対象物が領域内に滞留する時間の閾値。定義された検知エリア内での対象物の滞留時間が設定時間を超えると、警報が作動します。

- 3) オプション: **ターゲット検出対象**を「人間」または「車両」に設定し、人体や車両以外による警報を排除します。



注記

この機能は特定のモデルでのみ利用可能です。

- 4) 「**描画領域**」をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定してプレビューウィンドウ内に四角形を描画します。

6. 武装スケジュールを設定します。詳細は「[武装スケジュールの設定](#)」を参照してください。
 7. 連動アクションを設定します。詳細は「[警報連動アクションの設定](#)」を参照してください。
 8. **適用**をクリックします。

区域進入検知

領域侵入検知機能は、外部から事前に定義された仮想領域に侵入する人物、車両、その他の物体を検知し、警報が作動した際に特定のアクションを実行することができます。

手順

1. **設定** → **イベント** → **スマートイベント** → **領域侵入** に移動します。
2. **カメラ**を設定します。
3. **有効化**をオンにする。
4. オプション: VCA検出でキャプチャした画像を保存するには「**VCA画像保存**」にチェックを入れます。
5. 検知ルールと検知エリアを設定します。
 - 1) **武装エリア**を設定します。最大4つの武装エリアを選択できます。
 - 2) **感度**を調整します。**感度**: 範囲 [0-100]。値が高いほど、検知アラームがより簡単に作動します。
 - 3) オプション: **ターゲット検出**を「人」または「車両」に設定し、人体や車両によって引き起こされない警報を排除します。



注記

この機能は特定のモデルでのみ利用可能です。

- 4) 「**描画領域**」をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定してプレビューウィンドウ内に四角形を描画します。

6. 武装スケジュールを設定します。詳細は「[武装スケジュールの設定](#)」を参照してください。

7. 連動アクションを設定します。詳細は [「警報連動アクションの設定」](#) を参照してください。
8. **適用** をクリックします。

領域退出検知

領域退出検知機能は、あらかじめ定義された仮想領域から退出する人物、車両、その他の物体を検知し、警報が作動したときに特定のアクションを実行することができます。

手順

1. **設定** → **イベント** → **スマートイベント** → **領域退出** に移動します。
2. **カメラ** を設定します。
3. **有効にする** をオンにします。
4. オプション: **VCA検出** でキャプチャした画像を保存するには **「VCA画像保存」** にチェックを入れます。
5. 検知ルールと検知エリアを設定します。
 - 1) **武装エリア** を設定します。最大4つの武装エリアを選択できます。
 - 2) **感度** を調整します。**感度**: 範囲 [0-100]。値が高いほど、検知アラームがより簡単に作動します。
 - 3) オプション: **ターゲット検出** を **「人」** または **「車両」** に設定し、人体や車両によって引き起こされない警報を排除します。



注記

この機能は特定のモデルでのみ利用可能です。

- 4) **「描画領域」** をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定してプレビューウィンドウ内に四角形を描画します。
6. 武装スケジュールを設定します。詳細は [「武装スケジュールの設定」](#) を参照してください。
7. 連動アクションを設定します。詳細は [「警報連動アクションの設定」](#) を参照してください。
8. **適用** をクリックします。

温度スクリーニング

指定したサーモグラフィカメラが接続されると、デバイスは温度測定結果を表示し、正常または異常な温度が検出された場合に音声アラートで通知します。

開始前に

お使いのサーモグラフィカメラがこの機能をサポートしており、適切に設定されていることを確認してください。

手順

1. **設定** → **イベント** → **スマートイベント** に移動します。
2. サーモグラフィカメラの光学チャンネルを選択します。
3. **顔検出** をクリックします。
4. **アラーム温度** を設定します。検出された温度がアラーム温度を超えると、デバイスがアラームをトリガーします。
5. **感度** を設定します。


感度

顔検出の感度を指します。

6. 武装スケジュールを設定します。詳細は「[武装スケジュールの設定](#)」を参照してください。
7. 連動アクションを設定します。詳細は「[警報連動アクションの設定](#)」を参照してください。
8. **適用**をクリックし

ます。次にすべきこ

と

- ライブビューでをクリックすると検知結果を確認できます。正常な温度は異常温度は赤色で表示されます。
- 上部の「**検索**」をクリックすると関連ファイルを検索できます。

サーマルカメラ検知

本デバイスは、ネットワークサーマルカメラのイベント検知モード（火災検知、温度検知など）をサポートしています。選択したイベントの武装スケジュールと連動アクションを設定できます。

ご利用の前に

サーマルネットワークカメラをデバイスに追加し、カメラが有効になっていることを確認してください。

手順

1. **設定** → **イベント** → **スマートイベント** に移動します。
2. サーマルカメラ検出イベントを選択します。
3. **カメラ**を設定します。
4. 武装スケジュールを設定します。詳細は「[武装スケジュールの設定](#)」を参照してください。
5. 連動アクションを設定します。詳細は「[アラーム連動アクションの設定](#)」を参照してください。
6. **適用**をクリックします。

6.4.3 武装スケジュールの設定

手順

1. 「**武装スケジュール**」をクリックします。
2. 曜日から1日を選択し、時間帯を設定します。1日あたり最大8つの時間帯を設定できます。



注意

時間帯は重複または重ならないものとする。

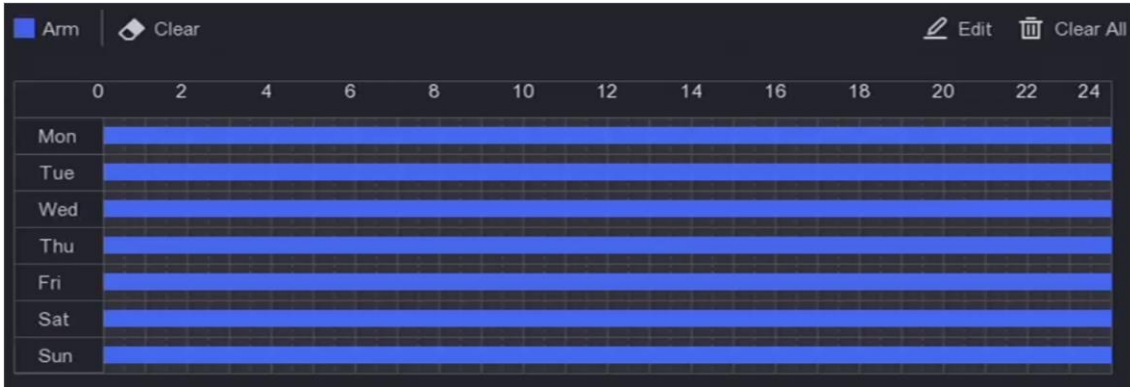


図6-21 警戒スケジュール設定

3. 適用をクリックします。

6.4.4 アラーム連動アクションの設定

アラームポップアップウィンドウの設定

アラームがトリガーされると、ローカルモニターは、フルスクリーン監視用に設定されたアラーム発生チャンネルのビデオ画像をフルスクリーンで表示します。また、複数のチャンネルで同時にアラームがトリガーされた場合、自動切り替えの滞留時間を設定する必要があります。

手順

1. 設定 → システム → ライブビュー → 一般 に移動します。
2. イベント出力と待機時間を設定します。

アラームポップアップ出力

イベント映像を表示する出力を選択します。

アラームポップアップ遅延

アラームイベント画像を表示する時間を秒単位で設定します。複数のチャンネルで同時にアラームが発生した場合、それらの全画面画像は10秒間隔（デフォルトの表示時間）で切り替わります。

3. アラーム検出の**連動アクション**をクリックします。
4. **アラームポップアップウィンドウアラーム連動アクション**を選択します。
5. トリガーチャンネル設定で、フルスクリーン監視を行いたいチャンネルを選択します。



注記

アラームが停止すると自動切り替えは終了し、ライブビューインターフェースに戻ります。

ブザーアラームの設定

音声警告により、ビデオレコーダーは警報が検出された際に

検出された場合に、ビデオレコーダーが可聴ビープ音を鳴らすようにします。

手順

1. 設定 → システム → ライブビュー → 全般 に移動します。
2. オーディオをオンにし、音量を設定します。
3. アラーム検知の連動アクション画面に移動します。
4. プザーアラーム連動アクションを選択します。

監視センターへの通知

ビデオレコーダーは、イベント発生時に例外または警報信号をリモート警報ホストに送信できます。警報ホストとは、クライアントソフトウェア（例：iVMS-4200、iVMS-5200）がインストールされたコンピュータを指します。

手順

1. 設定 → ネットワーク → 一般 → 詳細設定 に移動します。
2. アラームホストIPとアラームホストポートを設定します。
3. アラーム検出の連動アクション画面に移動します。
4. 監視センターへ通知を選択します。

メール連携の設定

ビデオレコーダーは、アラームが検出されたときに、ユーザーにアラーム情報を含む電子メールを送信することができます。

手順

1. 設定 → ネットワーク → メール に移動します。
2. 設定を行います。
3. アラーム検出の連携アクション画面に移動します。
4. アラーム連動アクションとして「メール送信」を選択してください。


音声アラートの設定

アラームがトリガーされると、リンクアクションとして音声ファイルが再生されます。

手順



この連動アクションは、特定のイベントおよびモデルでのみ利用可能です。

1. 通常連動で「音声アラート」をチェックしてください。
2. 各イベントのオーディオを設定するには、 をクリックします。
3. OKをクリックします。

アラーム出力のトリガー

アラーム出力は、通常イベントおよびスマートイベントによってトリガーされます。

手順

1. アラーム入力またはイベント検出のリンケージアクションインターフェースに移動します。
2. アラーム出力のトリガーをクリックします。
3. トリガーするアラーム出力を選択します。
4. 設定 → イベント → 通常イベント → アラーム出力 に移動します。
5. リストからアラーム出力項目を選択します。詳細は [アラーム出力](#) をご参照ください。

PTZ連動の設定

ビデオレコーダーは、アラームイベントまたは VCA 検出イベントが発生したときに、PTZ アクション（プリセット/パトロール/パターン呼び出しなど）をトリガーできます。

手順

1. アラーム入力またはVCA検出のリンケージアクションインターフェースに移動します。
2. PTZ連動を選択します。
3. PTZ操作を実行するカメラを選択します。
4. アラームイベント発生時に呼び出すプリセット/パトロール/パターン番号を選択します。



図 6-22 PTZ 連動



注記

リンケージ動作には、一度に 1 つの PTZ タイプのみを設定できます。

音声および光警報の連動設定

特定のネットワークカメラでは、アラーム連動動作を音声アラームまたは光アラームとして設定できます。

始める前に

- カメラが音声とライトアラーム連動に対応していることを確認してください。
- 音声出力と音量が適切に設定されていることを確認してください。

手順

1. 連動アクションをクリックしてください。
2. 音声またはライトを目的の機能として選択します。
3. 適用をクリックします。



オーディオおよびライトのパラメータを設定する必要がある場合は、Webブラウザからネットワークカメラにログインして設定してください。

6.5 録画管理

6.5.1 録画スケジュールの設定

ビデオレコーダーは、設定されたスケジュールに従って自動的に録画を開始/停止します。

連続録画の設定

手順

1. **設定** → **記録** → **パラメータ** に移動します。
2. カメラの連続メインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。
3. **設定** → **記録** → **スケジュール** に移動します。
4. 録画タイプを「**連続**」に選択します。

イベント録画の設定

通常イベントまたはスマートイベントによってトリガーされる録画を設定できます。

手順

1. **設定** → **イベント** に移動します。
2. イベント検出を設定し、イベント発生時に録画をトリガーするカメラを選択します。
3. **設定** → **録画** → **パラメータ** に移動します。
4. カメラの連続メインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。
5. **設定** → **録画** → **スケジュール** に移動します。
6. 録画タイプを「**イベント**」に選択します。

スケジュールを編集

手順

1. **設定** → **録画** → **スケジュール** に移動します。

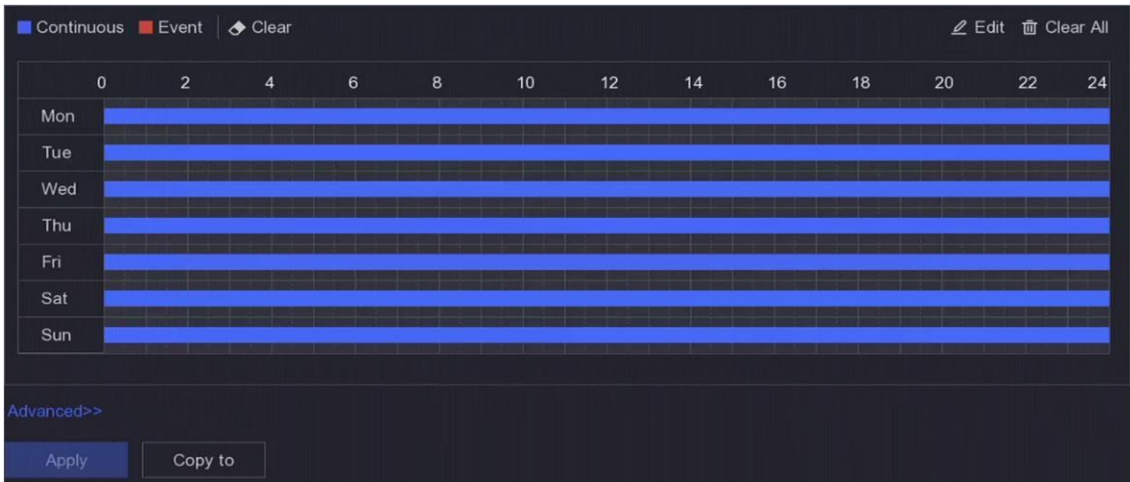


図 6-23 録画スケジュール

連続

連続録画。

イベント

すべてのイベントトリガーアラームによってトリガーされる録画。

2. カメラ番号でカメラを選択
3. 有効にするをオンにします。
4. 録画スケジュールを設定します。
 - 1) 編集をクリックします。
 - 2) 曜日で設定する曜日を選択します。
 - 3) 終日録画スケジュールを設定するには、「終日」にチェックを入れ、スケジュールタイプを選択してください。
 - 4) その他のスケジュールを設定するには、「終日」のチェックを外し、開始/終了時間とスケジュールタイプを設定します。



注

1日あたり最大8つの時間帯を設定できます。また、時間帯同士が重複することはできません。

- 5) 設定を保存して上位メニューに戻るには、[OK] をクリックします。



注記

スケジュールタイプを「継続的」または「イベント」から選択し、希望する期間にカーソルをドラッグして色付きのバーを描画することもできます。

5. 詳細設定をクリックして詳細パラメータを設定します。

音声の録音

オーディオはビデオファイルに録音されます。

事前録音

スケジュールされた時間またはイベントの前に録音する時間を設定します。たとえば、アラームが

10:00に録画を開始する場合、事前録画時間を5秒に設定すると、カメラは9:59:55に録画を開始します。

事後録画

イベント終了後またはスケジュールされた時刻に録画を開始する設定時間。例：アラーム起動による録画が11:00に終了する場合、ポスト録画時間を5秒に設定すると、11:00:05まで録画されます。

ストリームタイプ

メインストリームとサブストリームから録画対象を選択可能です。サブストリームを選択すると、同じストレージ容量でより長い時間の録画が可能です。

動画/画像の有効期限

有効期限は、録画ファイルがHDDに保存される期間です。期限が切れるとファイルは削除されます。有効期限を0に設定すると、ファイルは削除されません。ファイルの実際の保存期間は、HDDの容量によって決定されます。



図6-24 詳細設定

6. 詳細設定を保存するには「OK」をクリックします。
7. 適用をクリックします。

6.5.2 録画パラメータの設定

手順

1. 設定 → 記録 → パラメータ に移動し、カメラのメインストリームおよびサブストリームのパラメータを設定します。
2. 録画パラメータを設定します。

メインストリーム

メインストリームとは、ハードディスクドライブに記録されるデータに影響を与える主要ストリームを指し、動画の品質と画像サイズを直接決定します。サブストリームと比較して、メインストリームはより高い解像度とフレームレートで高品質な動画を提供します。

を提供します。

サブストリーム

サブストリームは、メインストリームと並行して動作する第二のコーデックです。これにより、直接録画の品質を損なうことなく、インターネットの送信帯域幅を削減できます。サブストリームは、ライブ映像を視聴するためのスマートフォンアプリケーションで専ら使用されることが多いです。インターネット速度に制限のあるユーザーは、この設定から最も恩恵を受ける可能性があります。

フレームレート

フレームレートとは、1秒間にキャプチャされるフレーム数を指します。動画ストリームに動きがある場合、フレームレートが高いほど画質が維持されるため有利です。

解像度

画像解像度は、デジタル画像が保持できる詳細度の尺度です。解像度が高いほど、詳細度も高くなります。解像度は、ピクセル列数（幅）×ピクセル行数（高さ）で指定できます。例：1024×768。

ビットレート

ビットレート（Kbit/s または Mbit/s）は速度と呼ばれることが多いですが、実際には時間単位あたりのビット数を定義するもので、距離/時間単位ではありません。

H.264+を有効にする/H.265+を有効にする

H.264+/H.265+ モードは、低ビットレートで高画質を確保するのに役立ちます。帯域幅と HDD ストレージ容量の必要性を効果的に削減できます。

3. 適用をクリックします。

6.5.3 ストレージデバイス

HDDを初期化

HDDを初めて使用する場合は、取り付け後に初期化してください。

始める前に

ビデオレコーダーに少なくとも1台のHDDを取り付けてください。

手順

1. 設定 → 録画 → ストレージ に移動します。
2. HDD を選択します。
3. 初期化 をクリックします。

ネットワークディスクの追加

割り当てられた NAS または IP SAN ディスクをビデオレコーダーに追加し、ネットワーク HDD として使用できます。

手順

1. 設定 → レコード → ストレージ に移動します。
2. 追加 をクリックします。
3. NetHDD を設定します。
4. タイプ を NAS または IPSAN に設定します。
5. NetHDD IP アドレスを入力します。
6. 🔍 をクリックして利用可能なディスクを検索します。

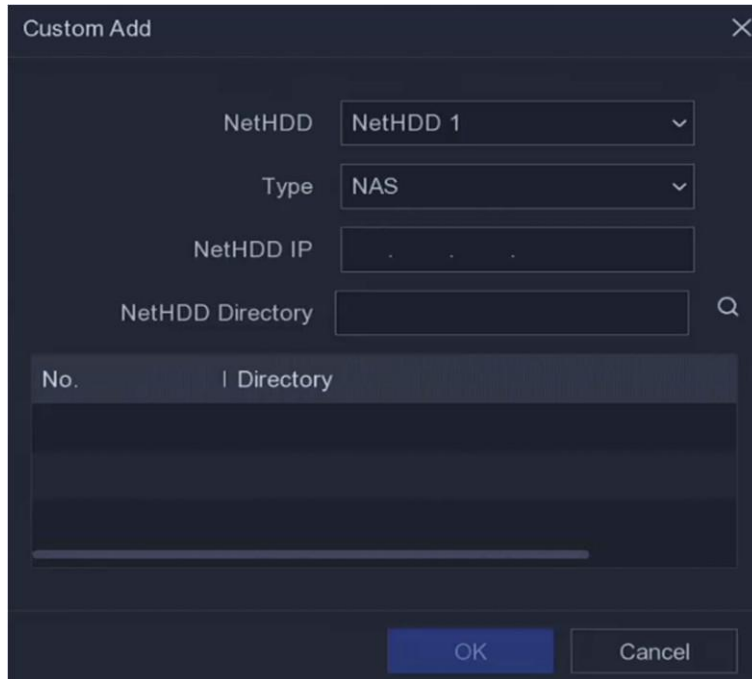


図 6-25 NetHDD の追加

7. リストから NAS ディスクを選択するか、NetHDD Directory にディレクトリを手動で入力します。
8. [OK] をクリックします。



注

各ネットワークディスクの最大ストレージ容量は 8 TB です。

結果

追加されたネットワークディスクは、ストレージデバイスリストに表示されます。

6.5.4 ストレージモードの設定

HDD グループの設定

複数のHDDをグループで管理できます。HDD設定により、指定したチャンネルの映像を特定のHDDグループに録画できます。

手順



この機能は特定のモデルでのみ利用可能です。

1. 設定 → 録画 → ストレージモード に移動します。
2. モードをグループに設定します。
3. グループ番号を選択します。
4. HDDグループに録画するIPカメラを選択します。

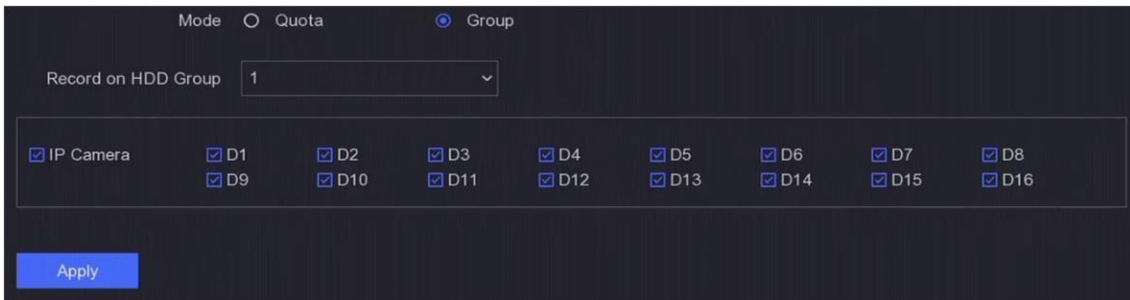



図 6-26 グループ

5. 適用 をクリックします。
6. ビデオレコーダーを再起動して、新しいストレージモード設定を有効にします。
7. 再起動後、設定 → レコード → ストレージ に移動してください。
8. グループを設定するには、対象のHDDの「」をクリックします。
9. 現在のHDDのグループ番号を選択します。
10. OK をクリックします。



HDDのグループ番号が変更された場合は、HDDのカメラを再グループ化してください。

HDDのクォータを設定する

各カメラには、ビデオ保存用に割り当てられたクォータを設定できます。

手順



この機能は特定のモデルでのみ利用可能です。

1. 設定 → レコード → ストレージモードに移動します。
2. モードを「クォータ」に設定します。
3. カメラでクォータを設定するカメラを選択します。
4. 記録容量にストレージ容量を入力します。

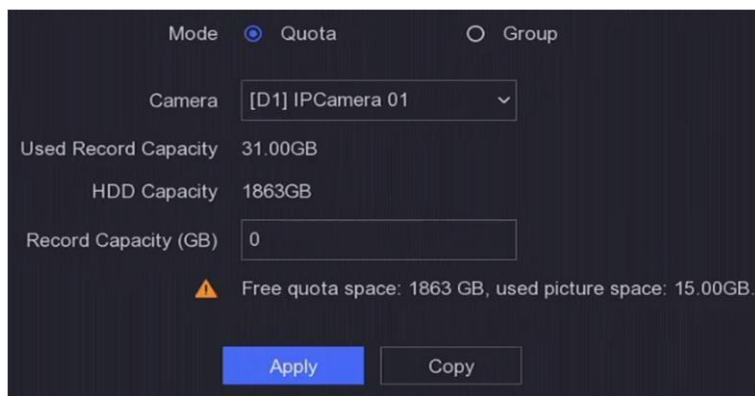


図 6-27 クォータ



クォータ容量を0に設定すると、すべてのカメラがビデオおよび画像用にHDDの総容量を使用します。

5. 適用をクリックします。
6. ビデオレコーダーを再起動して、新しい設定を有効にします。

6.5.5 詳細設定

手順

1. 設定 → 録画 → 詳細設定に移動します。
2. パラメータを任意に設定してください。

上書き

- 無効: HDDが満杯になると、ビデオレコーダーは書き込みを停止します。
- 有効: ハードドライブが満杯の場合、ビデオ録画は最も古いファイルを削除して新しいファイルの書き込みを続行します。

HDDスリープを有効にする

長時間動作していない HDD はスリープ状態になります。

カメラVCAデータの保存

カメラの VCA データを保存し、検索できるようにします。

アラーム保存

HDDの空き容量が不足している場合、これを無効にして容量を節約できますが、デバイスはアラーム情報の保存を停止します。

画像保存

HDDの空き容量が不足している場合は、この機能を無効にして容量を節約することができますが、その場合はデバイスが画像の保存を停止します。

6.6 Wi-Fi

本機は無線ネットワークルーターとして動作できます。

手順

1. **設定** → **Wi-Fi** に移動します。

The image shows a dark-themed configuration screen for Wi-Fi settings. The fields are as follows:

- SSID: [Empty text box]
- Area/Country: [Dropdown menu]
- Channel: [Dropdown menu showing 'Self-adaptive']
- Security Mode: [Dropdown menu showing 'WPA2-PSK']
- Encryption Type: [Dropdown menu showing 'AES']
- Key: [Text box with asterisks '*****']
- IP Address: [Empty text box]
- Apply: [Blue button]

図 6-28 Wi-Fi 設定

2. 以下の無線ネットワークパラメータを設定します。

SSID

SSIDは Service Set Identifierの略称です。SSIDはデバイスが提供するWi-Fi名です。

エリア/国

ルーターを使用する地域を選択してください。

チャンネル

状況に応じて最適なチャンネルを選択してください。

帯域幅

帯域幅モードを選択してください。

セキュリティモード

無線ネットワークのセキュリティプロトコルを選択します。

暗号化タイプ

情報の保護に使用されます。

キー

暗号化キーを入力します。

IP アドレス

Wi-Fi IP アドレスを入力してください。

3. 設定を保存するには「**適用**」をクリックしてください。

第7章 メンテナンス

7.1 デフォルトに戻す

手順

1. 右上の「」をクリックします。
2. 復元タイプを選択してください。

簡易復元

ネットワーク（IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、MTU、NIC 動作モード、デフォルトルート、サーバーポートなど）およびユーザーアカウントパラメータを除く、すべてのパラメータを工場出荷時のデフォルト設定に復元します。

工場出荷時設定

すべてのパラメータを工場出荷時のデフォルト設定に復元します。

非アクティブ状態への復元


デバイスを非アクティブ状態に復元し、ユーザーアカウントの復元を除き、すべての設定を変更せずに残します。

3. **[はい]** をクリックします。デバイスは自動的に再起動します。

7.2 検索ログ


ビデオレコーダーの操作、アラーム、例外、および情報はログに保存され、いつでも閲覧およびエクスポートが可能です。

手順

1. 右上の「」をクリックします。
2. 「**その他**」をクリックします。
3. 「**ログ情報**」をクリックします。
4. 検索条件を設定します。
5. **検索** をクリックします。

7.3 システムサービス

手順

1. 右上の「」をクリックします。
2. **[その他]** をクリックします。
3. **システムサービス** をクリックします。

4. お好みのパラメータを設定してください。

RTSP

RTSP 認証を設定することで、ライブビューのストリームデータを特に保護することができます。

RTSP認証

2種類の認証方式が選択可能です。**ダイジェスト認証**を選択した場合、ダイジェスト認証を使用したリクエストのみが、IPアドレス経由でRTSPプロトコルによるビデオストリームにアクセスできます。セキュリティ上の理由から、認証方式として**ダイジェスト**を選択することを推奨します。

ISAPI

ISAPI (Internet Server Application Programming Interface) はHTTPを基盤としたオープンプロトコルであり、システムデバイス間 (例: ネットワークカメラ、NVRなど) の通信を実現します。ビデオレコーダーをサーバーとして使用することで、システムはビデオレコーダーを検出し接続できます。


HTTP

管理者ユーザーアカウントは、GUIまたはWebブラウザからHTTPサービスを無効化できます。HTTPが無効化されると、ISAPIやONVIFを含む関連サービスもすべて終了します。

HTTP認証

HTTPサービスを有効にする必要がある場合、アクセスセキュリティを強化するためにHTTP認証を設定できます。2種類の認証タイプから選択可能です。セキュリティ上の理由から、認証タイプとして**ダイジェスト**認証を選択することを推奨します。

カメラ追加検知

この機能はネットワークカメラの状態を検出します。ネットワークカメラが別のビデオレコーダーによって追加されている場合、**オンラインデバイス**一覧ではネットワークカメラの状態が「」と表示されます。

5. 適用をクリックします。

7.4 アップグレード

警告


アップグレード中は、シャットダウンや電源を切らないでください。


7.4.1 ローカルアップグレード

開始前に

アップグレード用ファームウェアをバックアップデバイスに保存し、デバイスに接続してください。

手順

1. 右上の「」をクリックします。

2.  をクリックします。
3. ローカルアップグレードをクリックします。
4. デバイス名でバックアップデバイスを選択します。
5. アップグレード用ファームウェアを選択してください。
6. アップグレードをクリックしてください。デバイスは自動的に再起動します。



7.4.2 オンラインアップグレード

最新のオンラインファームウェアでデバイスをアップグレードします。

開始前に

Hik-Connectが有効化され、適切に設定されていることを確認してください。詳細は[Hik-Connect](#)を参照してください。

手順

1. 右上の  をクリックします。
2. クリック  をクリックします。
3. オンラインアップグレードに移動します。
4. 最新のファームウェアをダウンロードしてください。

自動ダウンロード 最新のファームウェアを自動的に確認・ダウンロードします。

テストアップグレード テストアップグレードをクリックすると、手動で最新のファームウェアを確認およびダウンロードします。

5. 新しいファームウェアバージョンが利用可能な場合は、デバイスをアップグレードしてください。デバイスは自動的に再起動します。

7.5 Wi-Fi情報を表示

Wi-Fiカメラの信号強度やその他のWi-Fi情報は、**[設定]** → **[詳細設定]** → **[Wi-Fi]** で確認できます。

操作 → Wi-Fi で確認できます。

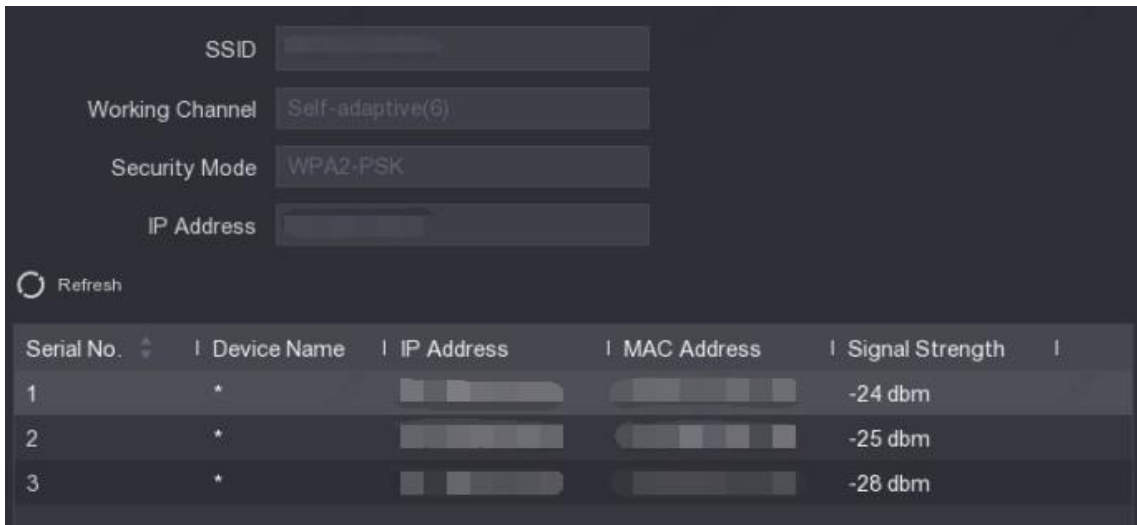


図 7-1 Wi-Fi 情報の表示


第8章 アラーム

イベントが発生すると、アラームセンターで詳細を確認できます。

8.1 イベントヒントの設定

アラームセンターで通知するイベントを選択します。

手順

1. 右上の「」をクリックします。
2. **例外、基本イベント、またはスマートイベント**を任意に設定してください。

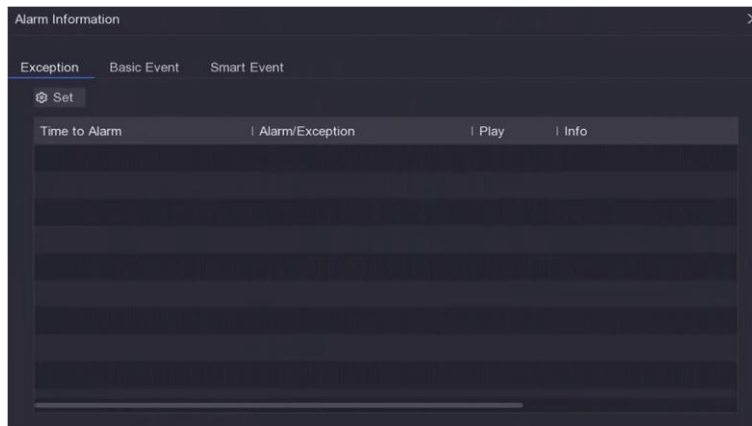





図8-1 アラームセンター

3.  をクリックし、通知対象のイベントを選択します。
4. **[OK]** をクリックします。
選択したイベントが発生すると、アラーム情報が  (ローカルメニューの右上隅) に表示されます。

8.2 アラームセンターでアラームを表示

手順

1. ローカルメニューの右上隅にある「」をクリックします。
2. **例外、基本イベント、またはスマートイベント**をクリックして、必要に応じて表示します。

第9章 Web 操作

9.1 はじめに

ウェブブラウザからビデオレコーダーにアクセスできます。

以下のウェブブラウザのいずれかをご利用いただけます：Internet Explorer 11.0、Apple Safari、Mozilla Firefox、Google Chrome。
対応解像度は1024×768以上です。

一部のモデルでは、ウェブコンポーネントプラグインをダウンロードしてインストールする必要があります。そうしないと、一部の機能が利用できなくなります。ダウンロードアドレスは

<http://hikdownload.us7.com/web/webplugin/windows/WebComponents/standard/WebComponents.exe>です。

9.2 ログイン

インターネット接続環境下での本製品のご利用には、ネットワークセキュリティ上のリスクが伴う可能性があることをご承知おきください。ネットワーク攻撃や情報漏洩を防ぐため、ご自身の保護対策を強化してください。本製品が正常に動作しない場合は、販売店または最寄りのサービスセンターまでお問い合わせください。

手順

1. ウェブブラウザを開き、ビデオレコーダーのIPアドレスを入力して**Enter**キーを押します。



HTTPポートを変更した場合は、アドレスバーに **http://IP アドレス:HTTPポート** と入力してください。例: **http: 192.168.1.64:81**。

2. ログイン画面で**ユーザー名**と**パスワード**を入力してください。
3. **ログイン**をクリックします。

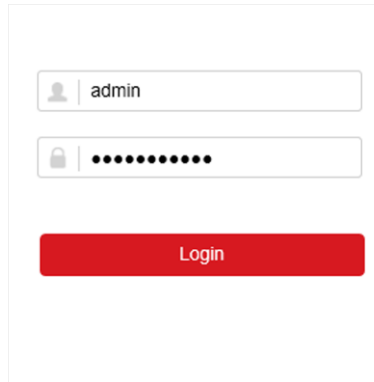


図 9-1 ログイン

4. インストールプロンプトに従ってプラグインをインストールします。



注

プラグインのインストールを完了するには、Web ブラウザを閉じる必要がある場合があります。

9.3 ライブビュー

ログイン後、ライブビューインターフェースが表示されます。



図 9-2 ライブビュー

9.4 再生

再生をクリックして再生インターフェースに入ります。

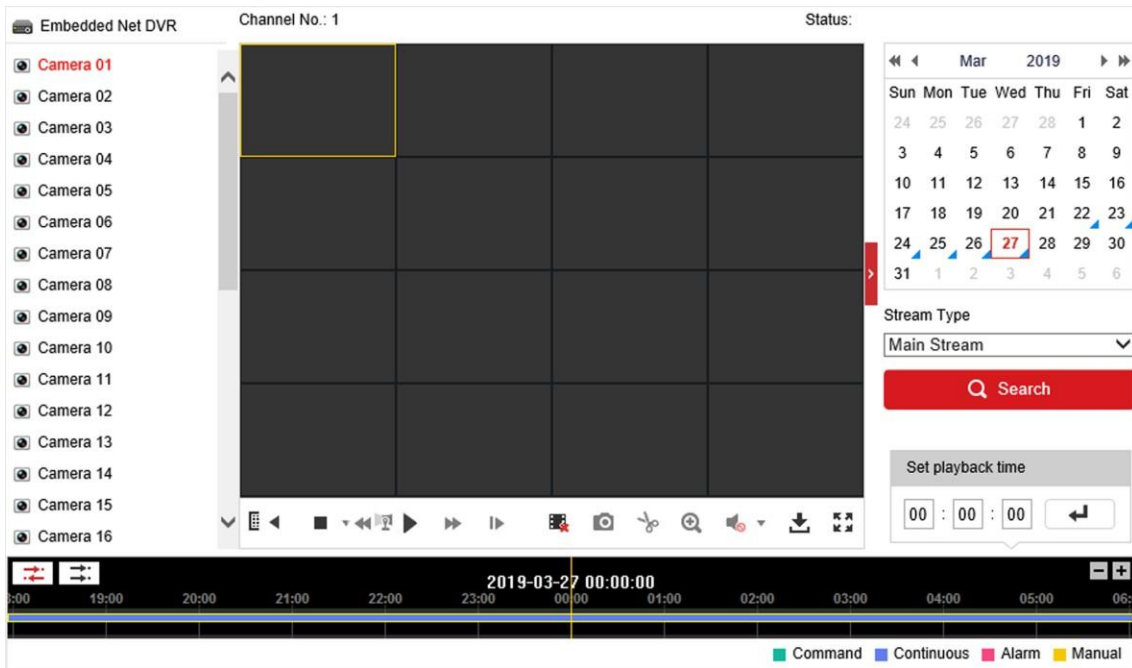


図9-3 再生

Upgrade & Maintenance Online Upgrade **Log** Diagnose

Major Type: Minor Type:

Start Time: End Time: Search

Log List Export

No.	Time	Major Type	Minor Type	Channel No.	Local/Remote User	Remote Host IP

Total 0 Items << < 0/0 > >>

図 9-5 ログ

第10章 付録

10.1 用語集

デュアルストリーム

デュアルストリームは、高解像度ビデオをローカルに記録しながら、低解像度のストリームをネットワーク経由で送信するために使用される技術です。2つのストリームは DVR によって生成され、メインストリームの最大解像度は 1080P、サブストリームの最大解像度は CIF です。

DVR

デジタルビデオレコーダーの略称。DVRはアナログカメラからの映像信号を受け取り、信号を圧縮して内蔵ハードドライブに保存できる装置である。

HDD

ハードディスクドライブの略称。磁気表面を持つプラッター上にデジタル符号化されたデータを保存する記憶媒体。

DHCP

ダイナミックホスト構成プロトコル (DHCP) は、デバイス (DHCPクライアント) がインターネットプロトコルネットワークで動作するための構成情報を取得するために使用するネットワークアプリケーションプロトコルです。

HTTP

ハイパーテキスト転送プロトコルの略称。ネットワークを介してサーバーとブラウザ間でハイパーテキストのリクエストや情報を転送するためのプロトコル。

PPPoE

PPPoE (Point-to-Point Protocol over Ethernet) は、イーサネットフレーム内にポイントツーポイントプロトコル (PPP) フレームをカプセル化するネットワークプロトコルである。主に、個々のユーザーがイーサネット経由でADSLトランシーバー (モデム) に接続するADSLサービスや、プレーンなメトロイーサネットネットワークで使用される。

DDNS

ダイナミックDNS (Dynamic DNS) は、インターネットプロトコルスイートを使用するルーターやコンピュータシステムなどのネットワーク接続デバイスが、DNSに保存されている設定済みホスト名、アドレス、その他の情報のアクティブなDNS構成を、リアルタイム (アドホック) で変更するようドメインネームサーバーに通知する機能を提供する手法、プロトコル、またはネットワークサービスです。

ハイブリッドDVR

ハイブリッド DVR は、DVR と NVR を組み合わせたものです。

NTP

ネットワーク時刻プロトコルの略称。ネットワーク上のコンピュータの時計を同期させるために設計されたプロトコル。

NTSC

National Television System Committee（全米テレビジョンシステム委員会）の略称。NTSCは米国や日本などで使用されるアナログテレビ規格である。NTSC信号の各フレームには60Hzで525本のスキャンラインが含まれる。

NVR

ネットワークビデオレコーダーの略称。NVRは、IPカメラ、IPドームカメラ、その他のDVRの集中管理と保存に使用されるPCベースまたは組み込みシステムである。

PAL

位相交替ラインの略称。PALはまた、世界の大部分の地域で放送テレビシステムに使用される別のビデオ規格である。PAL信号は50Hzで625走査線を含む。

PTZ

パン・チルト・ズームの略称。PTZカメラはモーター駆動システムであり、カメラの左右パン、上下チルト、ズームイン/ズームアウトを可能にする。

USB

ユニバーサル・シリアル・バスの略称。USBは、デバイスをホストコンピュータに接続するためのプラグアンドプレイ対応シリアルバス規格である。

10.2 通信マトリックス

以下のQRコードをスキャンして通信マトリックス文書をご覧ください。



図10-1 通信マトリックス

10.3 デバイスコマンド

以下のQRコードをスキャンして、デバイスコマンド文書をご覧ください。



図10-2 デバイスコマンド



遠くを見据え、さらに遠くへ